明日のくらし、ささえあう

CO·OP共済

地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協働する活動を応援します —

2023年度 活動報告集

日本コープ共済生活協同組合連合会

ご挨拶

2023年度を振り返って・・・

世界に目を向けると、2023年度はロシアによるウクライナへの軍事侵攻に加え、10月にはイスラエル・パレスチナの紛争が勃発するなど不安定な世界情勢が続きました。また、世界的なインフレーションによる物価高はとどまらず、一段と厳しさを増す社会情勢が日々の生活に色濃く影を落とす中で、生活に困窮する人、社会から孤立する人、支援を必要とする人たちの数はこれまで以上に増えています。さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症も感染症法の分類において5類に変更され、徐々に日常生活が戻り始めています。コロナが蔓延した2020年以降、止めざるを得なかった取り組みの再開や、コロナ禍で生じた新たな課題への取り組みも必要になってきています。人々の価値観も多様化し、地域の課題は複雑化していますが、だからこそ「人と人」、「組織と組織」がつながり、お互いを理解し認め合い、協議を重ね、一致点を積み上げながら「協働」の力でさまざまな課題に取り組んでいくことがますます必要となる時代です。

生協はこれまでも常に人々のくらしを見つめ、生活に根差した声を聴き、共感を束ねながら、時代とともに変化する課題に向きあってきた組織です。その生協と地域の多様な団体との「協働」を後押しする本助成制度に大きな可能性を感じています。助成金活用生協・団体の皆さんと成果を共有し、一緒に学びあい、本助成制度が誰一人取り残さない地域づくりに貢献してほしいと願っています。

全国で35件の活動が展開されています・・・

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下「コープ共済連」）では、社会貢献活動として2012年度から「CO・OP共済　地域ささえあい助成」を開始し、2024年度助成の実施で13年目を迎えます。10年の節目の際、これまでの取り組みを振り返り、さらに本助成制度を発展させ、生協と団体との「協働」の力を発揮しながら地域共生社会の実現につなげていくための検討をおこないました。検討の結果、2022年度から「協働」の状況により「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」という3つの協働区分（注1）を設けることとし、2022年度には3つの区分のうち「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」の募集をおこない、両区分で全国から42件のご応募をいただき、審査委員会での選考をもとに35件（「協働はじめる助成」8件、「協働ひろめる助成」27件）の活動に対し、総額23,948,178円の助成を決定し、2023年度にはこの35件の活動が全国各地で展開されました。生協と地域の様々な団体の「協働」は、これまでも、これからも本助成制度の応募条件としてこだわり、大切に考えています。選考のポイントは主に次の6点です。

選考ポイント

①本助成制度の「趣旨」を理解し、応募の協働区分の「協働の状況」を満たしているか。
②「助成対象となる活動」の内容を満たしているか。
③ニーズにもとづき、地域の課題解決や発展につながる活動になっているか。
④活動計画は実現可能か。
⑤収支計画は適切か。
⑥助成終了後も活動を継続する意思があるか、将来の展望を描けているか。

2024年度に向けて「協働たかめる助成」審査も実施・・・

2024年度の活動に向けて2023年10月～11月には「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」に加え、初の「協働たかめる助成」の募集を開始し、2024年2月に審査をおこないました。いずれの活動も先進的で、チャレンジングで、学びや気づきの多い内容でした。本報告集が発行される2024年6月にはすでに助成、活動が始まっていますが、2024年度以降は3つの協働区分がそろい、助成をすすめていくことになります。これまで以上に、学びあいが深まり、地域課題の発見や解決のための活動が広がることを願っています。この報告集が、多くの皆様にとって、お互いの活動を知り、学びあい、より良い活動につなげるための一助になれば幸いです。

2024年6月吉日

2023年度　CO・OP共済　地域ささえあい助成　審査委員会　委員長　斉藤　弥生
（大阪大学大学院人間科学研究科　教授、放送大学　客員教授）

注1　「協働はじめる助成」では生協と地域の団体とが協働をはじめることを、「協働ひろめる助成」ではその協働関係を生協が主体性を発揮しながら広げること・深めることを後押ししていきます。そして、「協働たかめる助成」では、活動・協働の運営を安定させて協働関係を持続的なものとし、この協働関係をベースとして地域の多様な課題に向きあうことをサポートしていきます。

目次

ご挨拶 …… 2
2023年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧 …… 5

活動報告 協働はじめる助成

※各項目の1行目が活動の名称、2行目が第一団体（窓口団体）の名称です。

- 川西けやき坂広場を地域に愛され必要とされる場にする活動
  一般社団法人i-coi …… 9
- 居場所で始めようシングルママのお仕事応援
  一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット …… 10
- 若年女性向け 自立支援型シェアハウス「ますかっと」の運営
  生活協同組合コープこうべ 第1地区本部 …… 11
- 女性と子ども、シングルマザーのための居住支援と居場所づくり
  生活協同組合コープこうべ 第1地区本部 …… 12
- 子ども食堂にお祭りを届けよう！
  スマイルリンク …… 13
- こどもの本でつながる「こども図書館」プロジェクト
  こどもサポートステーション たねとしずく …… 14
- 女性向けケア付きシェアハウス、託児、みんなの食堂による支えあいの地域拠点づくり
  生活クラブ生活協同組合 …… 15
- 学習支援（無料）塾 エデュケア
  特定非営利活動法人全国夜間中学ネット …… 16

助成を受けた活動がメディアに多数取り上げられました …… 17

活動報告 協働ひろめる助成

※各項目の1行目が活動の名称、2行目が第一団体（窓口団体）の名称です。

- 人と人とがゆるく繋がれるコミュニティカフェ「At Link café」の運営
  特定非営利活動法人アットリンク奈良 …… 19
- あのね〜食と居場所でつながる地域の子どもたちのセーフティネット
  一般社団法人あのね …… 20
- すべての子どもに本の喜びを！
  公益財団法人ふきのとう文庫 …… 21
- ほっかいどう若者応援プロジェクト
  北海道生活協同組合連合会 …… 22
- 『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市永江地区自治連合会協力による地域支え合い活動
  鳥取県生活協同組合 …… 23
- つながりインターンシップ@協同〜若者が協同の働き方を学び、どう生きるかを考える〜
  一般社団法人くらしサポート・ウィズ …… 24
- 「就学援助世帯」を対象とするフードバンク活動
  生活協同組合しまね …… 25
- コロナ禍で生活に影響が出ている学生（高校、大学、専門学校生）や、つながり・交流の機会が希薄になっている学生等に対する食料支援や交流会の開催
  大阪よどがわ市民生活協同組合 …… 26

● ICTを活用した「地域での新たな見守り・買い物支援体制」研究開発事業
とやま生活協同組合 …… 27
● なんでも相談会・フードバンク
北毛保健生活協同組合 …… 28
● 福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、こども食堂を応援するプロジェクトVer2
エフコープ生活協同組合 …… 29
● DV被害者および母子家庭等貧困世帯のDV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための活動
特定非営利活動法人DV対策センター …… 30
● ちいさなやさしさ市場
群馬中央医療生活協同組合 …… 31
● あったかフードバンク大泉
東京保健生活協同組合 …… 32
● コープのびのびクラブ・ぴよぴよクラブ
広島中央保健生活協同組合 …… 33
● 協働ステーションではじめる地域の大切な記憶の共同学習
生活協働組合コープぎふ …… 34
● 小学校での放課後学習教室運営と放課後学習教室運営の支援
生活協同組合コープこうべ …… 35
● フードバンク活動でこども食堂と食品提供事業者の顔の見える関係づくり
福井県民生活協同組合 …… 36
● いのちとくらしの映画祭2023（映画＆講演会）
生活協同組合コープ自然派兵庫 …… 37
● エフコープとNPOが協働で取り組む地域の子育て家庭を応援するフードパントリー事業
エフコープ生活協同組合 …… 38
● 殿川資源を活用した環境再生・持続可能な未来を感じるこども音楽アトリエ・コミュニティースペースつくり
殿川の活性化に取り組もう会 …… 39
● 地域住民の買い物支援、高齢者見守りおよび生きがい創出などの地域支援関連活動
生活協同組合コープあきた …… 40
● SDGsを活かした地域コミュニティづくり
生活協同組合パルシステム千葉 …… 41
● WEBアプリを活用した地域資源の見える化と活動団体支援強化による重層的支援体制の確立
生活協同組合コープこうべ 第2地区本部 …… 42
● LFA Japanとコープこうべが織りなす食物アレルギーに優しいまちづくり
一般社団法人LFA Japan …… 43
● 天ヶ瀬温泉街コミュニティガーデン交流促進事業
一般社団法人あまみら …… 44
● 住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA
特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構 …… 45

協働はじめる助成・協働ひろめる助成　2023年度助成のまとめ …… 46
協働はじめる助成・協働ひろめる助成　募集のお知らせ …… 47
地域ささえあい助成　2023年度フレンドリーサポートについて …… 49
地域ささえあい助成　2023年度現地視察について …… 51
2023年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会」開催報告 …… 53
地域ささえあい助成事務局からのお知らせ …… 55
協働たかめる助成　募集のお知らせ …… 57
特集 CO・OP共済40周年記念 …… 59

2023年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧

協働はじめる助成

「協働はじめる助成」の助成を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

川西けやき坂広場を地域に愛され必要とされる場にする活動 9

一般社団法人i-coi
NPO法人はち
生活協同組合コープこうべ

居場所で始めようシングルママのお仕事応援 10

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット
生活協同組合コープさっぽろ

若年女性向け 自立支援型シェアハウス「ますかっと」の運営 11

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部
一般社団法人officeひと房の葡萄

女性と子ども、シングルマザーのための居住支援と居場所づくり 12

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部
認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ

子ども食堂にお祭りを届けよう！ 13

スマイルリンク
かりや愛知中央生活協同組合（コープ中央）

こどもの本でつながる「こども図書館」プロジェクト 14

こどもサポートステーション たねとしずく
生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

女性向けケア付きシェアハウス、託児、みんなの食堂による支えあいの地域拠点づくり 15

生活クラブ生活協同組合
認定NPO法人さくらんぼ
横浜みなみ生活クラブ生活協同組合

学習支援（無料）塾 エデュケア 16

特定非営利活動法人全国夜間中学ネット
コープこうべ第3地区本部

8件　3,364,766円

「活動報告」ページの凡例

川西けやき坂広場を地域に愛され必要とされる場にする活動 ← 活動名

一般社団法人i-coi ／ NPO法人はち ／ 生活協同組合コープこうべ ← 協働団体名

https://www.facebook.com/npo8008 ← 関連ウェブページ

※ 内容のご確認は、「コープ　ささえあい」で検索していただき、HPよりご確認ください。

← 本文

活動のきっかけ

コープこうべのご紹介により、川西市で活動する一社）i-coiとNPO法人はちが出会う。i-coiの目指すところとはちの目指すところに近似性を感じ、川西市けやき坂コープこうべ遊休地でおこなっている緑化事業に加えて市民交流と成り得る活動を始めた。i-coiが軸となりドッグランとしての開放、犬のしつけ教室などを企画した。

活動内容概要

- 専門家講師による犬のしつけ教室
- ドッグラン設営
- 交流ができる居場所創り
- その他継続的取り組み（緑化事象、環境学習、マルシェ）

協働ひろめる助成

「協働ひろめる助成」の助成を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

人と人とがゆるく繋がれるコミュニティカフェ「At Link café」の運営 19

特定非営利活動法人アットリンク奈良
市民生活協同組合ならコープ

あのね～食と居場所でつながる地域の子どもたちのセーフティネット 20

一般社団法人あのね
生活協同組合おおさかパルコープ

すべての子どもに本の喜びを！ 21

公益財団法人ふきのとう文庫
生活協同組合コープさっぽろ

ほっかいどう若者応援プロジェクト 22

北海道生活協同組合連合会
連合北海道
北海道労働者福祉協議会
生活協同組合連合会大学生協事業連合北海道地区

『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市永江地区自治連合会協力による地域支え合い活動 23

鳥取県生活協同組合
米子市永江地区自治連合会

つながりインターンシップ@協同～若者が協同の働き方を学び、どう生きるかを考える～ 24

一般社団法人くらしサポート・ウィズ
パルシステム生活協同組合連合会

「就学援助世帯」を対象とするフードバンク活動 25

生活協同組合しまね
特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便

コロナ禍で生活に影響が出ている学生（高校、大学、専門学校生）や、つながり・交流の機会が希薄になっている学生等に対する食料支援や交流会の開催 26

大阪よどがわ市民生活協同組合
吹田市社会福祉協議会
吹田市社会福祉協議会施設連絡会

ICTを活用した「地域での新たな見守り・買い物支援体制」研究開発事業 27

とやま生活協同組合
黒部市社会福祉協議会

なんでも相談会・フードバンク 28

北毛保健生活協同組合
渋川北群馬民主商工会

福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、こども食堂を応援するプロジェクトVer2 29

エフコープ生活協同組合
東峰村えんプロジェクトの会

DV被害者および母子家庭等貧困世帯のDV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための活動 30

特定非営利活動法人DV対策センター
東都生活協同組合

ちいさなやさしさ市場 31

群馬中央医療生活協同組合
NPO法人はじめの一歩

あったかフードバンク大泉 32

東京保健生活協同組合
あったかフードバンク大泉

コープのびのびクラブ・ぴよぴよクラブ 33

広島中央保健生活協同組合
ふくしま文庫

協働ひろめる助成

協働ステーションではじめる地域の大切な記憶の共同学習 34
生活協働組合コープぎふ
社会福祉法人いぶき福祉会

小学校での放課後学習教室運営と放課後学習教室運営の支援 35
生活協同組合コープこうべ
がんばるもん実行委員会

フードバンク活動でこども食堂と食品提供事業者の顔の見える関係づくり 36
福井県民生活協同組合
こども食堂ネットワークふくい

いのちとくらしの映画祭2023（映画&講演会） 37
生活協同組合コープ自然派兵庫
認定NPO法人フードバンク関西
生活協同組合コープこうべ
こわすな憲法！いのちとくらし！市民デモHYOGO

エフコープとNPOが協働で取り組む地域の子育て家庭を応援するフードパントリー事業 38
エフコープ生活協同組合
特定非営利活動法人チャイルドケアセンター

殿川資源を活用した環境再生・持続可能な未来を感じるこども音楽アトリエ・コミュニティースペースつくり 39
殿川の活性化に取り組もう会
市民生活協同組合ならコープ

地域住民の買い物支援、高齢者見守りおよび生きがい創出などの地域支援関連活動 40
生活協同組合コープあきた
NPO法人南外さいかい市

SDGsを活かした地域コミュニティづくり 41
生活協同組合パルシステム千葉
フードバンクちば
ワーカーズコープちば
淑徳大学コミュニティ政策学部 消費者法研究室

WEBアプリを活用した地域資源の見える化と活動団体支援強化による重層的支援体制の確立 42
生活協同組合コープこうべ 第2地区本部
特定非営利活動法人あしやNPOセンター
芦屋市
芦屋市社会福祉協議会

LFA Japanとコープこうべが織りなす食物アレルギーに優しいまちづくり 43
一般社団法人LFA Japan
生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

天ヶ瀬温泉街コミュニティガーデン交流促進事業 44
一般社団法人あまみら
生活協同組合コープおおいた

住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA 45
特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構
生活協同組合おおさかパルコープ

27件　20,583,412円

総合計　35件　23,948,178円

活動報告

協働はじめる助成

助成件数	8件
助成金総額	3,364,766円

協働はじめる助成では、
生協と地域の団体がはじめて協働して取り組む活動を助成しています。

川西けやき坂広場を地域に愛され必要とされる場にする活動

一般社団法人i-coi ／ NPO法人はち ／ 生活協同組合コープこうべ

https://www.facebook.com/npo8008

活動のきっかけ

コープこうべのご紹介により、川西市で活動する一社）i-coiとNPO法人はちが出会う。i-coiの目指すところとはちの目指すところに近似性を感じ、川西市けやき坂コープこうべ遊休地でおこなっている緑化事業に加えて市民交流と成り得る活動を始めた。i-coiが軸となりドッグランとしての開放、犬のしつけ教室などを企画した。

活動内容概要

- 専門家講師による犬のしつけ教室
- ドッグラン設営
- 交流ができる居場所創り
- その他継続的取り組み（緑化事象、環境学習、マルシェ）

他団体と協働することで発見したこと

他団体（一社）i-coi）との協働から感じたことはこれまでの取り組みに一味、ふた味加えることでアイデアが広がり、関係人口が増加した。
また、地域住民との関係性が最重要項目で、共通目標を見つけ共有し取り組むことの重要性を感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

コープこうべミニさんに買い物に来る方々への告知と、マルシェでの出店や協力は備品の不足、広報能力の不足を補っていただき感謝している。

成果として評価できる点

緑化事業を展開中の当該敷地に休憩できる場創りは買い物客や学校帰りの児童が立ち寄った際に有意義な活用であったと思う。と、同時にドッグランや犬のしつけ教室に関しては地域住民から聞き取りをおこない得たニーズではなく、発案者の【やりたいこと】であったように思う。地域住民との対話会などをおこなうことで更に意義のあるすすめ方があったように思う。

将来イメージ

緑化事業、環境学習は継続的におこない、地域教育機関などと連携し学習の場として提供していこうと考えている。また、地域住民にとっては比較的自由なアイデアが投影できる場所として解放し、使用者自身が管理していくような仕組み作りまで到達したい。ドッグランや動物との向き合い方は改めて広報し、関心のある人の参加を促すところから再開しようと考えている。

居場所で始めようシングルママのお仕事応援

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット ／ 生活協同組合コープさっぽろ

https://social-pedagogy.net/

活動のきっかけ

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会が2022年に地域サロン「ひとてま」を開設するにあたり、コープさっぽろへ協働を依頼した。特に子育て世代への支援について、コープさっぽろが多くの事業を展開しており、地域課題・ニーズに対して、協働の取り組みを提案いただいた。2023年4月から「ひとてま」の運営を引き継ぐ当団体では、特にシングルマザーへの支援を展開していくために、コープさっぽろに協働を依頼した。

活動内容概要

ひとり親世帯の社会的自立支援を強化するため、シングルマザー対象のIT系職業訓練を「ひとてま」を会場として週2日程度開講する。また、コープさっぽろの協力のもとに食品や生活用品を「ひとてま」に備え、居場所機能と併せてパントリー機能を付加する。ひとり親世帯の子どもへの支援として、大学進学を予定している高校生には「大学生育英奨学金」を活用して、コープさっぽろでのアルバイト体験を推進する。

他団体と協働することで発見したこと

子育て世代特にひとり親世帯にとって、体験機会・キャリア支援・生活支援いずれにおいてもニーズがあるものの、自身から声を挙げることが難しく、世帯を取り巻く支援者・団体で共有することでニーズに応えることができることがわかった。単発の取り組みではなく、継続的な取り組みをおこなうことが中・長期的に世帯を支えることにつながると考えている。

活動において生協が担った具体的な役割

「ひとてま」を利用するシングルマザーを中心とした子育て支援プログラム（読み聞かせ等）の実施および困窮世帯向けの食品提供等をいただいたほか、利用者向けに求人情報も提供いただいた。

成果として評価できる点

フードパントリーの継続性を担保することで、子育て世代への日常的な地域のつながり先になることができた。また、職業訓練と絵本の読み聞かせについては、不定期のイベント的要素をもっているが、子育て世代を支える地域の関係機関への聞き取りもおこなったうえで実施したことで、地域における子育て世代のためのキャリア支援と体験機会の創出を担うことができた。
なお、当初予定していた「大学生育英奨学金」の活用にはつながらなかったが、コープさっぽろから個別にアルバイト情報をいただくなどにより、生活・キャリア支援をおこなうことができた。

将来イメージ

未来を担う子どもたちの健全な成長を応援できる地域づくりのモデルになることを目指す。
子育て世代が安心して地元で生活できるよう、子ども・若者・高齢者が自然に顔見知りになる拠点をつくり、「ちょっとしたことを頼める・相談できる」といったこれまでは血縁者に限られていたような関係性が地縁によって実現するようになる。
子育て世代のみならず高齢者を含めた多世代を対象として、地域での孤立防止の一端を担う。

若年女性向け
自立支援型シェアハウス「ますかっと」の運営

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部　／　一般社団法人officeひと房の葡萄

活動のきっかけ

私たちは学習支援や子どもの社会的居場所を運営し、子どもと関わってきました。中学校から就職まで支援ができた場合でも、家賃の滞納などトラブルを起こし追い込まれることがあります。18歳を超えると支援が手薄になっていく現状に、何かできないかと2年にわたって検討してきました。自立援助ホームなどの制度的な支援は私たちには難しく、他所での事例を参考にして自立支援型シェアハウスを始めることとしました。

活動内容概要

一人一部屋の5部屋と共用のダイニングキッチン、風呂などがあるシェアハウスを用意しました。生活などの支援をおこなう複数の支援員が毎日、一定時間をシェアハウスで過ごします。入居者と適度な距離を保ちながら困りごとや自立に向けて必要なスキルを身に付けるのを支援します。将来独立するために貯金や体調を管理したりスキルアップをはかり失職のリスクを回避することを学びます。シェアハウスからの自立後のケアもおこないます。

他団体と協働することで発見したこと

入居者と安定した関係になりにくい、または時間がかかる場合があります。入居者を支援してきた他団体から情報を得られると支援の立ち上げが早くなります。入居後に生じた事態について相談したり、関係性の変化に応じたバックアップとなります。入居者とは直接関係がない団体にも協力を依頼することで効果的な支援になっています。

活動において生協が担った具体的な役割

コープこうべさんには、そもそもリーフル（尼崎市住環境支援事業）を紹介していただき、シェアハウスの設立に寄与していただきました。シェアハウスの開設後は、親の虐待から逃れてきた入居者のために、就労場所を提供していただきました。体調や精神的な問題を起こしがちな入居者を手厚く支援していただき、この場所で安心して生活を組み立てていきたいと思えるようにしていただきました。

成果として評価できる点

親の虐待から逃れるためにシェルターを頼った女性を受け入れました。厳しい状況を生き抜き逃れてきたことからPTSDを患い精神科への通院が欠かせません。精神的な不安定さから就労困難になり、依存症やパニック障害を発症するなど次々とかなり重篤な状態が続きました。この間コミュニケーションを絶やさないように努めました。必ずしも入居者が望んだ対応ができませんでした。しかし1年後、精神科の医師から「ようやく重篤な状態を脱した」との見解を示していただきました。とことん寄り添い、できる限りのことを尽くしてきたことが本人の必死の努力を支える一助になったことをうれしく思っています。

将来イメージ

受け入れる若年女性が抱える課題は様々です。あらかじめメニューを用意することはできません。私たちが実践してきたのは臨機応変に対応することです。この観点から固定観念にとらわれず、かつ適切な対応のできる人材を確保すること、財政的な余裕を持ち全力を発揮することを保証することが必要です。その一方で、そもそも若年女性が抱え込む問題が何処から発生し彼らをとらえるのか、そのメカニズムの解明と対処法の検討が欠かせません。同じような志を持つ団体と協働しつつ、市井の方たちと協働して社会の在り方を変える活動につながり、その一角を自立支援型シェアハウスが占めるようになることを望んでいます。

女性と子ども、シングルマザーのための居住支援と居場所づくり

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部　／
認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ

https://wn-kobe.or.jp/news/%e6%b4%bb%e5%8b%95%e5%a0%b1%e5%91%8a/3643/

活動のきっかけ

当団体居場所でおこなっているフードパントリーや相談事業にご協力いただいているコープこうべからREHUL事業へお誘いをいただき、これまで2戸借り上げて整備し、2組の母子世帯に居宅として提供。定期的訪問、食糧支援をおこない、相談に応じている。さらに1戸を借りあげ、居宅あるいは居場所として活用する意向にいたる。

活動内容概要

収入が少ないシングルマザー世帯や単身女性が無理なく入居できるよう低廉な家賃（3Kで3万円～）で提供できるよう居室の修繕をおこない、備品等購入して準備を整えた。スタッフやボランティアが準備に訪問。また、居場所として勉強会や交流会を企画実施した。定期的にミーティングをおこない、交流を深めることにより、困難を抱えたボランティアの女性たちや近隣に住むDV被害者の孤立を軽減することにもつながっている。

他団体と協働することで発見したこと

他団体と協働することにより、自グループでおこなう場合よりさらに広い支援を提供できるのだと実感した。また、自治会の会合にも複数回参加したことにより地域の方とつながるきっかけにもなった。安心できる環境で生活できるための今後への足がかりとなる。

成果として評価できる点

居場所について、困難を抱えた女性たちがボランティアとして運営を担い、集まりを開くことができ、エンパワメントにも役立てることができた。今後はフードパントリー（フードロスや寄贈品を利用した食糧支援）よりきめ細かな支援をおこないたい。

活動において生協が担った具体的な役割

具体的な支援としてフードパントリー（フードロスや寄贈品を利用した食糧支援）でいつもご協力をいただいている。また、今回のささえあい活動についても、お声がけいただいたからこそ当グループの困難を抱えた女性たちへの支援というミッションをより充実したものにできる。

将来イメージ

改修工事をした住居に入居された方が地域に溶け込んだ生活を送れるように、自治会とのつなぎなどのサポート、居場所を利用した地域の方との交流などへの参加呼びかけからスタートしているが、それらの経験を経て、居住者が受け身でなく、自ら自治活動へ参加し、願わくば居場所を利用した活動などを実施できるようになることが望ましいと考えている。

子ども食堂にお祭りを届けよう！

スマイルリンク　／　かりや愛知中央生活協同組合（コープ中央）

活動のきっかけ

地域でのお祭りやイベントを開催したことがあるという自分たちの経験、ノウハウを活かして、近隣地域の子ども食堂に何かできることはないかと考え活動を検討しました。自分たちが得意であるお祭りを子ども食堂にて開催することで、そこに通う子どもたちを元気に、笑顔にしたい、また普段忙しくされている親御さまに、子どもたちの楽しむ姿を見てもらい、心休まる時間を提供したいという想いから活動を開始するに至りました。

活動内容概要

近隣の子ども食堂の開催日に合わせて、お祭りを提供し、多くの地域住民の方々に楽しんでいただけました。お祭りの内容として、射的や輪投げ、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、わたがし作りなどをおこないました。また、参加した子どもたちへ、生協の文具やお菓子、飲料を提供しました。参加した子どもたちだけでなく、親御さまや協働する団体スタッフを含め、お祭りを楽しむことができ、元気と笑顔を提供することができました。

他団体と協働することで発見したこと

様々な団体の経験や知識を組み合わせることで、より充実したイベントの企画、運営につながると感じました。地域の団体と協働することにより、イベントの認知度が向上し、参加者の増加につながると感じました。多くの団体との連携により、スタッフ不足の解消につながり、円滑な運営が可能になりました。また、団体同士の交流も生まれ、地域コミュニティの強化につながると感じました。

活動において生協が担った具体的な役割

参加いただいた地域の子どもたちと住民に向けて、文具やお菓子、飲料の試供品を配布することで、学びと健康づくりの機会の提供をおこないました。同時に、生協のチラシを配布することにより、生協の活動とサービスを紹介し、生協の理解促進につながりました。加えて、開催当日にスタッフとして参画することで、他団体とも交流をはかり、イベントを一層盛り上げ、イベントの成功に寄与しました。

成果として評価できる点

お祭りを開催することで、子ども食堂に多様な地域住民が参加し、コミュニティの活性化をはかることができました。実際にいただいた声として、「これまで子ども食堂に来たかったけど、周りの目が気になり来れなかった。しかし、お祭りの賑わいの雰囲気の中、気兼ねなく足を運ぶことができ、その後、継続的に通うことができるようになった。」という言葉をいただきました。参加された地域住民の方に笑顔と元気を提供するだけでなく、学習支援や健康支援といった生活のサポートをすることができました。また、他団体との交流、子ども食堂の認知度の向上、支援者の増加の機会となり、地域内外の連携強化を促進することができました。

将来イメージ

今回のお祭りの成果を踏まえ、継続的な活動につなげていくと共に、近隣の他の子ども食堂にもお祭りの提供をはかっていきたいと考えます。本活動を通じて子ども食堂の活動や魅力を伝えると共に、認知度を高めることで、子ども食堂への支援の拡大につながっていくと考えます。また、地域の団体や商店、企業と協働することで、運営コストを抑えつつ持続可能な地域共生のイベントとなり、地域に根付く活動にしていきたいと考えます。今後も子どもたちの教育支援、健康増進、笑顔で元気に、安心して成長できる地域づくりにつながる活動として継続していきたいと考えます。

こどもの本でつながる「こども図書館」プロジェクト

こどもサポートステーション たねとしずく ／ 生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

https://tanetosizuku.com

活動のきっかけ

当団体の事業の一つであるひとり親家庭への家事支援で見えてきたことは、親の多忙や疾患、経済困窮により、こども達が本や文化に触れる機会が限られている状況だった。家事支援はこども達に温かい食事と清潔な住居を準備する一助にはなるが、各家庭の中で文化体験を提供することは難しかった。親の状況に関わらず、どのこども達も年齢に応じた読書や文化体験ができ、安心して過ごせる場所を開設したいと感じるようになった。

活動内容概要

前半は活動に賛同する仲間を見つけるため、ブックトークや講演会を開催した。「理念の共有」を意識することで、ボランティアやマンスリーサポーター登録につながった。後半はひとり親家庭のこども達が本や文化に触れるイベントとして、移動図書館やワークショップを開催した。「絵」「音楽」「料理」「科学」「ブックトーク」をテーマに、「作る」「話す」「読む」「食べる」「遊ぶ」時間を設けた。幼児から中学生までが参加した。

他団体と協働することで発見したこと

たねとしずくライブラリーを開館し、児童相談所、スクールソーシャルワーカー、不登校の親子支援団体などからこどもの相談を受けることが増えてきた。親子が分離でき、こどもが安心して過ごせる場所が必要とされていることを実感した。当団体が支援してきたひとり親家庭に限らず、困窮世帯、ヤングケアラー、虐待、不登校などこどもたちの困難な背景は多様で、利用するこどもを限定しない居場所が求められている。

活動において生協が担った具体的な役割

移動図書館では、コープ北口食彩館のつどい場「わになーれ」で実施することでクッション性が高いスペースなど、こども達が過ごしやすい状態で参加し、本に触れる機会づくりができた。たねとしずくライブラリーで開催している10代応援食堂にむけて、食材提供として協同購入センター西宮で返品になったお米や調味料などの食品を毎月定期的に提供するなど、それぞれの活動で店舗・宅配の両業態を活かした。

成果として評価できる点

「本」を切り口にすることで、こども達が日常的に文化体験の機会を得られている。また、居場所を支援する寄付者の獲得につながり、事業継続の資金面での安定につながっている。ボランティア・寄付者などを増やす過程で、こども達を活動の中で傷つけることがないように「こどもの権利」を土台にした選書の基準をボランティアと共に考えることができた。考える過程の共有は理念の共有を深めた。これまでの「訪問支援」に加え、ライブラリーという「居場所」を運営することで、直接こどもを支援することができるようになった。また、ライブラリーでつながったこどもを「訪問支援」につなぎ、親子をケアするなど事業連携の厚みが増した。

将来イメージ

支援者育成の研修の内容を充実させ、テキストや動画を作成するなど、研修事業の基盤を整える。視察の受け入れ、オンラインの活用もおこないながら、当団体の研修に参加した人達が自らこども食堂やパントリーなど活動団体を立ち上げ、各地でこども達を支える力強い担い手となっていくよう、コープこうべや西宮市社協等と協働していく。ライブラリーでは、こども達が主体的に学んだり活動できるよう、ユースインターンを中心に環境を整えていく。また、当団体の居場所に来るこども達の社会経験の場としてコープのイベントや仕事に関わるチャンスを作るなど、地域の中でこども達の成長する姿を見守れる社会づくりをすすめていく。

女性向けケア付きシェアハウス、託児、みんなの食堂による支えあいの地域拠点づくり

生活クラブ生活協同組合　／　認定NPO法人さくらんぼ　／
横浜みなみ生活クラブ生活協同組合

https://yokohamaminami.net/community/2022-12-30/1145/

活動のきっかけ

生活クラブ生協旭センター3階に、旧職員寮の遊休スペースがあり、活用が課題となっていた。居住支援事業を実施していた認定NPO法人さくらんぼから、旭センター3階を活用し、協働で居住支援活動が実施できないかとの打診から協議を経て、プロジェクトで検討をすすめ、23年4月にホームタウンみなみを開設、生活クラブ生協、NPO法人さくらんぼ、横浜みなみ生活クラブと共同企業体を組織し、ともに運営をおこなっている。

活動内容概要

三者協働しそれぞれの団体の得意分野を活かしNPO法人さくらんぼがシェアハウスを担い、食堂・フードパントリー・保育スペースを横浜みなみ生活クラブが担い、生活クラブ生協が物件の管理やメンテナンスをおこなっている。また、ホームタウンみなみ共同企業体会議と運営会議を定期的に開催し、全体方針の決定とそれぞれの事業や活動の進捗状況、共にすすめていくことなどの確認をおこなっている。

他団体と協働することで発見したこと

三者協働することで地域拠点として自治会など、地域をまきこみながらすすめていき、必要としている人に支援を届けられるよう計画し、活動の様子や、進捗状況を地域の方へも発信し、伝えていくことができる。地域の人たちや他団体の持つ力を合わせていくことでより効果的なサポートができることがわかり、今後も協働によって得られたネットワークやリソースを活かし、より広範囲な支援を提供することを目指す。

成果として評価できる点

シェアハウスでは、関連支援団体・市区関連課・市区社協などからの問い合わせや見学・視察等あり、そのうち5名の入居につながった（全居室数は5）。また、ボランティア2名が活動しています。多世代食堂は、自治会、社協、区役所に加え、地域への情宣もおこない、4月～1月まで月1回開催し、累計で552食を提供した。（登録スタッフは54名）フードパントリーも月1回開催し、1月までで延べ170名に配布し、パントリー利用者から食堂への参加や入居者のパントリー利用と食堂利用もあり、連携を実感している。保育スペースは、7月から「子育てひろば」を開催し、10月までに4回開催し親子で延べ16名の参加があった。

活動において生協が担った具体的な役割

本構想の運営全体に関する連絡調整窓口として、ホームタウンみなみ共同企業体の事務局を担っている。日々の活動における「おたがいさまのたすけあい」の思いを、組合員のボランティア参加や、フードパントリー・多世代食堂・保育スペースの運営に活かしている。組合員のネットワークや地域とのつながりから地域からの参加をつくり、地域や関係者への情報共有、情宣から、支援が必要な地域のかたへ情報発信をする。

将来イメージ

地域拠点として、人が出会い、集い、交差する場所、“ホームタウン”として、必要とする人がいつでも戻ってこれるような場所にしたいという当初の思いを持ち続けていく。シェアハウスの入居者がゆるやかに地域とつながり、また、入居者の多様なニーズに応えられる拠点としていくことや地域の方が自分たちの居場所として気軽に立ち寄ったり、シェアハウスや食堂・保育のボランティアに参加したりできるよう、食堂の複数開催、バリエーション化、学習支援やイベントの開催などをすすめていく。保育スペースは、子育てひろばの定期開催、子育て世代の居場所として、また、妊娠期からプレママを支える場所として地域に開いていきたいと考える。

学習支援（無料）塾 エデュケア

特定非営利活動法人全国夜間中学ネット ／ コープこうべ第3地区本部

https://yakan-jhs.com

活動のきっかけ

私たちは教員OBで現職時代学力の格差が大きいことに授業の難しさを感じていました。そして、その原因に塾に通っている生徒とそうでない生徒の差も一因であると考えています。そのため、経済的ハンディにより塾に通うことができない生徒の学力保障をすることを目指して無料の塾を実施する事業を始めました。

活動内容概要

4月から翌年3月まで毎週3回17：30～19：30の2時間に無料の学習塾を開催しています。この活動を神戸市東灘区と長田区の2か所で実施しています。東灘区では10～15人、長田区には20～25人の生徒が在籍しています。中学3年生を中心にして高校入試に向けた学習に取り組んでいます。この成果として全員が希望する高校に合格しました。

他団体と協働することで発見したこと

子どものサポートや居場所づくりなど困難を抱える子どもたちへのセイフティネットの必要性を強く感じることができました。私たちの活動はその一部で点の取り組みですが、他の団体と協働することで面でその活動が広がるという認識を持つことができました。

活動において生協が担った具体的な役割

私たちは当初塾を開催する場所に困っていました。その課題にコープこうべ第三地区本部の協力により本部の会議室を1か月借りることができました。またコープ甲南店の集会室でも2か月の授業を開催できました。無料での使用は助成金と同等の手助けとなりました。コープの登録団体となることで、他の団体との交流会に参加して情報共有や広報活動に有益となりました。

成果として評価できる点

5月に始めた塾に通う生徒の成績は中学1年生の内容を理解できていない状況が多く見られました。もしくは中学3年生の授業の内容が全くわからない状況で学校に通っていました。そして、家庭での学習を全くしていない生徒がほとんどでした。それは怠惰でなく何をしていいかわからず、何も知識がない状況からくるものでした。しかし生徒たちはわかるようになりたいという気持ちはありました。私たちの取り組みでこのような生徒に学校についていける授業計画をたてて自分で学習できるように、自主的に家庭学習ができるようになった点が大きな成果です。その結果自分も勉強ができる、とういう自尊感情が生まれ進学の目標が生まれていきました。

将来イメージ

子どもたちの第3の居場所づくりの前に学校に居場所を作る必要があると考えています。この授業を始める前に想定していたより学力格差が放置されている状態を知りました。授業の内容がわからないまま放置されて、そのため学年がすすむにつれて大きくなり格差が広がる一方である現状です。これらの解消をしなければ不登校生の増加や将来への希望を抱けない無気力な生徒を生み出すのではないかと思います。そのためには各中学に一か所の学習支援塾を展開したいと思います。また、子ども食堂などと協働して勉強したあとに食事を提供する機会を設けるなど点でなく面で子どもたちのサポートを目指したいです。

助成を受けた活動がメディアに多数取り上げられました

多数の助成金活用団体から、2023年度に取り組んだ活動が新聞・テレビ等のメディアに取り上げられたとのご報告をいただきました。地域の団体と生協が協働して社会課題・地域課題に取り組む様子が、地域メディアや全国メディアを通じて広く発信されています。

メディアに取り上げられた活動の事例

(1) 人と人がゆるく繋がれるコミュニティカフェ「At Link café」の運営

協働団体	特定非営利活動法人アットリンク奈良、市民生活協同組合ならコープ
メディア	2023年11月5日　奈良新聞　朝刊「熱視線」
概要	9月24日におこなわれた、「At Link café」についての記事が2023年11月5日号に掲載されました。特定非営利活動法人アットリンク奈良は性暴力被害者を支援するNPO法人で、この活動では、毎月1回程度、人とゆるくつながれる居場所づくりを目的に、奈良市の拠点「アットリンクハウス」で毎回趣向を変えたコミュニティカフェをおこなっています。この日は日本茶講座が開かれ、40代から80代の女性6人が参加し、お茶とお菓子を味わいながら、日頃の生活を見直しました。

(2) フードバンク活動でこども食堂と食品提供事業者の顔の見える関係づくり

協働団体	福井県民生活協同組合、こども食堂ネットワークふくい
メディア	2023年12月20日　福井新聞
概要	12月18日におこなわれた、「県フードバンク連絡会」の交流会についての記事が2023年12月20日に掲載されました。連絡会は、福井県民生協事務局となり2022年9月に設立し、県内の16企業・団体から寄せられた余剰食品を年に3回、子ども食堂などに届けています。交流会は、提供事業者と受け取り側の活動の輪を広げようと初めて開催されました。先行事例となる石川県のフードバンクや福井の子ども食堂の活動報告の後、グループに分かれて課題や要望を話し合いました。

(3) 学習支援（無料）塾　エデュケア

協働団体	特定非営利活動法人全国夜間中学ネット、コープこうべ第3地区本部
メディア	毎日新聞
概要	特定非営利活動法人全国夜間中学ネットは家庭の経済的困窮から、塾に通えない子どものために無料塾を開講して学習指導する法人で、活動の紹介が毎日新聞に掲載されました。多様な人々が学ぶ自主夜間中学の運営を目指して、教師OBらが設立した法人の理念は「すべての人に基礎学力と自己肯定感の育成」です。現在の活動は、経済的ハンディにより塾に通うことができない中学3年生の生徒らに無料塾「みんラボ」を開講して、学力向上に励んでいます。

活動報告

協働ひろめる助成

助成先件数	27件
助成金総額	20,583,412円

協働ひろめる助成では、
生協と地域の団体との間にすでに協働の実績があり、
その協働をさらに広げて取り組む活動を助成しています。

人と人とがゆるく繋がれる
コミュニティカフェ「At Link café」の運営

特定非営利活動法人アットリンク奈良　／　市民生活協同組合ならコープ

https://www.atlinknara.org

活動のきっかけ

性暴力被害者や様々な理由で生き辛さを抱え孤立している人達に、安心してゆるく人や社会と繋がることのできる居場所を提供することで、人間関係の再構築が可能になり、学びや気づきから問題解決への糸口を探ったり、トラウマからの回復に向けた一歩を踏み出すことができるのではというのが活動のきっかけです。

活動内容概要

月に一回程度、当法人の相談拠点や参加者が多数の時はレンタルスペースにて、心と体を癒すことを目的とした様々なテーマで、その分野に詳しい講師をお招きし、参加者自身の学びや自分自身を大切な存在であるという感覚を取り戻す為の時間を提供しました。また被害に遭った時に安心してSOSが出せる地域となるために、性暴力被害に関する実態や理解を深めることを目的とした講演会を開催しました。

他団体と協働することで発見したこと

性暴力の加害、被害や子どもの貧困、虐待、いじめなども個人の問題ではなく社会の問題であり、全て繋がっていることを再認識しました。そして、支援対象は違っていてもやはりどの分野も民間だけでは支援に限界で、官民連携を強化して、柔軟で隙間のない支援体制の構築が必要であるという意見も他団体と共有できました。

活動において生協が担った具体的な役割

- 「At Link café」や講演会のチラシを掲示、機関誌にて告知。チラシを見たという生協の組合員が「At Link café」に複数名参加。その中で引きこもりの支援をしている方から「利用者で性暴力の被害相談は多くて、これからは（当法人に）相談する」とのことで、性暴力被害相談窓口としての周知に繋がった。
- 講演会は、開催当日の準備から片付け、昼食を提供。

成果として評価できる点

毎月開催している「At Link café」では、座る場所から全てにおいて「自分で選択する」ということを実施しています。それは、自ら選んだことを尊重されるという経験が「自分は大切な存在」という感覚に繋がるからです。
毎回終了後、アンケートを実施していますが、「被害者の気持ちに寄り添ったあたたかい集まりを作ってくださって感謝しています」や「自分の為に選ぶことの大切さをこれからも実践していこうと思いました」などの感想があり、活動のきっかけや目的は達成しつつあると評価しています。

将来イメージ

継続的に開催することで、「At Link café」は孤立しがちな性暴力被害者や、生きづらさを抱えた人達の精神的な居場所として機能し、地域に定着していきます。相談者の希望に応じて、当法人はトラウマケアまでできる相談窓口として、様々な性暴力被害に対応します。また、性暴力・性犯罪被害への知識や理解を深めるための講演会を定期的に開催することによって、性被害撲滅の気運をさらに醸成します。地域に根差したならコープ様と協働することで、安心して相談できる支援団体として当法人が広く認知されるようになり、相談件数の大幅な増加が予想されます。

あのね～食と居場所でつながる地域の子どもたちのセーフティネット

一般社団法人あのね　／　生活協同組合おおさかパルコープ

https://www.anone-kodomo.or.jp/

活動のきっかけ

地域のなかで生活困窮や虐待などでしんどい思いを抱えた子どもがいるかもしれない…との想いで、2016年に「高殿こども食堂あのね」を始め、ひとり親家庭等の子どもたちの居場所活動「あのねくらぶ」も2018年に開始。母子家庭の子どもと多く出会い、関係性が深まるなかで、おおさかパルコープ子ども食堂フードバンクを活用して食材などを無料で渡しており、コロナ禍を経て「あるのん」として拡充してきました。

活動内容概要

【高殿こども食堂あのね】地域の子どもや保護者が気軽に集える、食事と遊びの場。
【あのねくらぶ】登録制の子どもの居場所活動。ひとり親家庭やヤングケアラーの子どもたちの食事会、学習支援、遠足などの活動。
【あるのん】母子家庭の支援。地域の母子家庭約60世帯が登録。①食品配布：常温・冷蔵・冷凍の食品や文具等を無料配布。②個別支援：育児や生活の相談や、生活保護の申請、弁護士相談等の同行支援も実施。

他団体と協働することで発見したこと

フードロスの観点から入手できる食材が増えつつあることと、生活困窮の母子世帯が非常に多くあることが、お互いの活動からみえてきました。その2つをつなぎ、食材を受け渡すことで、フードロスと困窮者支援の成果を両立できるようにも見えますが、本当に喜ばれるものでなければ、渡すことで逆に当事者を傷つけてしまう可能性もあります。協働相手の「何のため」という意義を理解しあうことで、その解決の糸口が開けてきます。

活動において生協が担った具体的な役割

おおさかパルコープがフードバンクで集荷した食材や、オムツや洗剤等の日用品を、あのねの拠点まで搬入して無償で提供しており、あのねが安定して食品を供給する要の存在となっています。また、保冷箱や保冷剤の貸出や、あのねが夏祭りをおこなう際のたこ焼きの材料や器具や大量調理のノウハウも教えてイベントをサポートしました。

成果として評価できる点

おおさかパルコープのフードバンク事業との連携によって、あのねでは、毎月たくさんの食材を配布できるようになってきています。大阪市の災害備蓄品や、各種企業・団体からの大量提供にも対応しており、食品ロスを減らす観点からも一定の成果を果たすことができました。対象家庭に赤ちゃんが多くなった時にはおむつの供給を増やすなど、コミュニケーションを密にとって柔軟に対応しています。あのねでは地域の中で見守りが必要と思われる子どもたちとのつながりも増加しており、おおさかパルコープの提供する食材を提供することをコミュニケーションの第一歩として活用することもできています。

将来イメージ

地元の子どもたちに「あのね」が浸透し、学校や家庭の困りごとを相談できる場所として活用されていることをイメージしています。具体的には、子どもの居場所活動の開催日が増えたり、学習支援にも力をいれた活動をできればと考えています。また、シングルマザー支援として安定した食料提供や個別支援を継続して実施していきます。さらに、他機関との連携が深まり、困難な状況下にある地域の子どもをキャッチして、スピーディーかつ適切なサポートを実行できるように、地域の子どもたちのセーフティネットに成長していきたいと思います。

すべての子どもに本の喜びを！

公益財団法人ふきのとう文庫　／　生活協同組合コープさっぽろ

http://fukinotou.org/

活動のきっかけ

「ふきのとう文庫」は、子どもたちの健やかな成長を願ってやまない人々の集まりである。子どもたちの発達は、教育（学習）の機会均等を基礎として実現していくものと考える。とりわけて心身に障がいを持つ子どもたちを取り巻く課題は重要で、社会ではバリアフリーが叫ばれている。
ふきのとう文庫は、ボランティア精神のもとで、「文化的バリアフリー」を究極の目標に置いている。

活動内容概要

1. 子ども図書館事業
2. 布の本製作事業
3. 拡大写本製作事業
4. うたとおはなしの会・手づくり遊びなどのイベント事業
5. 文庫施設の協働活用
6. 機関誌「ふきのとう文庫だより」の発行
7. ホームページの活用

他団体と協働することで発見したこと

子ども図書館に縁遠かった方々が、関心を持って来館されて、改めてふきのとう文庫子ども図書館の存在意味や価値を知っていただいた。
さらに、クラブ生協との協働でコロナ解除により幼児のママと子どもの居場所「ほっとたいむ」にも会場提供できたことで来館者の増加にもつながった。

活動において生協が担った具体的な役割

4月13日コープさっぽろとふきのとう文庫が協定書を交わしたことにより、コープさっぽろの子育て拠点「トドックステーション」との連携強化につながった。
また、ふきのとう文庫の周知広報含めて、多方面においてサポートしていただいた。

成果として評価できる点

今年度のコープさっぽろ組合員活動委員会の方々が来訪されたり、中央区のみならず札幌市全区にわたって来館者が増えた。
多分野において、活動が広がることを期待したい。

将来イメージ

2023年度については、今までの活動に加えて、第三の居場所として「ふきのとう・こどもクラブ」を立ち上げたので、子ども図書館の役割にプラスして、近隣のみならず、多くの地域からの子どもたちを受け入れて、健全育成に役立てたい。
また、布の本製作や拡大写本製作に携わるボランティアの人員確保と、技術向上に向けての養成講座にも力を注ぎたい。

ほっかいどう若者応援プロジェクト

北海道生活協同組合連合会　／　連合北海道　／　北海道労働者福祉協議会　／
生活協同組合連合会大学生協事業連合北海道地区

https://h-wakamono-ouen.amebaownd.com/

活動のきっかけ

2020年、新型コロナウイルス感染症の影響で、学生のアルバイト収入減少や生活困窮が深刻化しました。一方、子ども食堂では、運営に必要な人手不足が課題となっていました。そこで、2つの課題を解決しようと、「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」を立ち上げ、学生が子ども食堂でボランティア活動に参加することで学生と地域がつながる居場所づくりとして考えました。

活動内容概要

学生の社会貢献と成長、そして子ども食堂の課題解決を両立するプロジェクトを実施します。
具体的には、学生とモデルとなる子ども食堂を連携させ、学習サポートだけでなく、防災学習や国際交流など年間を通して様々なイベントの運営をサポートをします。学生は運営者や地域の人々と共に活動し学生と子ども食堂の相互成長を促進するモデルを構築します。

他団体と協働することで発見したこと

「食の支援」を実施した時と同様、4団体各々の強みを活かし「ヒト」・「モノ」・「カネ」の確保について、各々が役割分担をしっかり発揮することによって、賛同していただける企業、団体、個人からの寄付・寄贈等がたくさん集まり、想いが形に変わり当初の計画以上の企画となりました。

活動において生協が担った具体的な役割

学生メンバーの立ち上げ時の募集対応（大学調整・募集説明会開催）の他、子ども食堂からの支援依頼について、事前ヒアリング調整、支援する子ども食堂が確定後には学生たちのシフト調整など運営にかかわる対応について、北海道生協連が事務局として対応しています。

成果として評価できる点

この活動ができたのは協同組合のつながりでもあり、改めて可能性を感じたものでもあります。労働組合と生協陣営の助け合いの組織力、双方が合わさることで強靭な社会を作る基盤にもなると改めて実感しました。プロジェクトでは報道の力を借りて学生の困窮を多くの方たちへ伝えることができ、支援の輪が個人、団体、企業にも広がりました。偶然かもしれませんが、この活動が伝わることで、道内各地の自治体、大学、市民有志、飲食店などによる支援金の支給や食料品の配布企画などがおこなわれ、学生支援の輪が広がりを見せた気がします。単独組織ではできないことも連携して目的を一つにすることで、多くの助け合いの輪が広がることを再認識ができました。

将来イメージ

私たちの「食の支援」や、「学生の社会貢献活動にかかわる事での居場所つくり」の活動を通じ、コロナ禍後の一部の学生や子ども達を、一時的に「笑顔」にさせてあげることはできたかと思います。しかし、これは一時の事であり、日々苦悩している学生や子ども達はまだ多数います。より本質的に学生支援のあり方や、子ども食堂の現状等を考えるには政治、行政に問う事も必要です。将来を担う若者を育てるためにどうするべきなのかを考える次の行動が必要かとも思います。この活動の経験を活かし、今後も協同の知恵と力を併せ、新たな支援の道を開ければと考えています。

『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市永江地区自治連合会協力による地域支え合い活動

鳥取県生活協同組合　／　米子市永江地区自治連合会

活動のきっかけ

永江地区のココステーション（当組合員商品受け渡し施設）の老朽化と手狭なこと、高齢化がすすんでいる居住者へのお役立ちとして、同店内でのミニココステーションを2019年8月に開設。開設に伴い、「生協サロン」を定期的に開催し、地域住民と交流をおこなう中で、スーパーマーケットの撤退や地域の高齢化と若年層の流出などによる買い物および生活困難者が増えている実態をお聞きし、課題解決に向け永江地区自治連合会との協働に至りました。2022年4月に自治連合会と地域支援活動に関する協定を締結し、ささえあい助成を活用することで充実した活動を継続しています。

活動内容概要

「支え愛の店ながえ」を住民同士のささえあい拠点とし、「食」の支援として夕食宅配（弁当配達）や、員外利用申請を鳥取県におこない店舗での生協商品の販売をおこないました。また、介護事業に当たらない簡単な生活のお手伝いとして、当組合の「くらし助け合いの会（有償ボランティア）」の仕組みを住民主体・地域限定で活用いただくお手伝いをおこなうことで、生協の事業活動の理解と参加を広げるとともに、住民同士のおたがいさまの心を地域に広げることを目的に取り組みました。2023年度は新型コロナウイルスが5類に移行したことから“サロン”も開催し、住民同士のコミュニケーションを深める手助けができました。

他団体と協働することで発見したこと

ひとつには、さまざまな団体がつながり合いそれぞれの団体の特徴を活かし協働することが重要であること、そして、地域の方々がそれぞれのくらしにあった利用となるように理解と参加を広げることが住民主体の持続可能な取り組みにつながると考えます。今年度から取り組んだ“サロン（ながえさんち）”では、社会福祉協議会や医療生協、ワーカーズコープの担当の方とも企画運営をおこなうことで、他団体との顔が見える関係づくりができ、お互いの事業活動の理解や、住民の皆さんとの関係も深めることができました。

活動において生協が担った具体的な役割

① 夕食宅配（お弁当配達）：該当エリア支所から「支え愛の店ながえ」に弁当を配達し、地域の方が見守りをかねて個別に配達し回収した前日の空き箱を支所に返す。ほか、弁当配達のフォロー。
② くらし助け合い活動：「支え愛の店ながえ」常駐のコーディネーター（地域住民）の活動をスムーズにおこなうための問題解決と広報支援。
③ 商品利用：「支え愛の店ながえ」で販売する商品の品揃え充実のため、員外利用の許可を取り生協商品の販売を昨年より開始しています。今年度も引き続き生協商品の仕入れに関する支援をおこないました。
④ サロン活動：今年度はサロンを定期的に開催し、住民同士の交流をすすめました。生協としてサロンの企画内容の支援をおこないました。以上、主に4つの活動を常駐職員が該当支所とともに支援をおこないました。

成果として評価できる点

自治連合会の皆さんも毎日5軒は声を掛けようと、地域内を訪問してチラシを渡したり、地域の方々から積極的にくらしの困りごとなどを聞き、生協の商品利用や助け合い活動への参加などで、「支え愛の店ながえ」に足を運んでいただくよう“住民主体の活動”の意識ができてきており、地域支援活動に関する協定を締結後、生協の存在が地域に少しずつ浸透してきていると感じています。2月末までの活動状況は、「食」の支援：夕食宅配（4,830食/年）、商品利用（134万円/年）、助け合い活動（活動員登録34名、利用者47名、総活動時間235時間（主な活動内容：家の片付け、草取り、衣類整理、剪定、ゴミ処理、書類整理など）、サロン開催回数と参加延べ人数（6回、75人）となっています。

将来イメージ

「支え愛の店ながえ」を拠点とした“食（夕食宅配と販売）”、“くらしの助け合い（有償ボランティア活動）”“サロン（住民どうしのコミュニケーションづくり）”の活動がより充実していくよう、生協だけでなく、行政や社協ほか様々な団体が関わり、住民主体とした地域づくりとして充実していく。また、活動から得られる収益を自治連合会に蓄積することで助成期間が終了した後も持続可能な取り組みとなり、さらに他地域にも広げられるモデルケースとなることを目指します。引き続き、当組合として自治連合会とともに積み重ねてきたものが後退しないよう、行政や関係団体の力も借り、より地域に密着すべく参加人数を広げていきます。

つながりインターンシップ@協同
～若者が協同の働き方を学び、どう生きるかを考える～

一般社団法人くらしサポート・ウィズ　／　パルシステム生活協同組合連合会

https://kurashidial.or.jp/youth/

活動のきっかけ

大学の授業で生協の活動を伝えた際、「生協って会社と違うの?」「協同組合は古いイメージ」という学生の率直な言葉を聞き、協同組合の魅力を若者に知ってもらう機会が少ないのではないかと気づきました。生協の事業や活動を体験してもらえば理解が広がるのではないかと考え、10年前に生協や労協と一緒に、就活のためではなく「生き方・働き方」を考えるための「協同を学ぶ」インターンシップをプログラム作りから始めました。

活動内容概要

たすけあいの組織である協同組合（生協や労協、協同金融、農協など）で働く人たちの考えや思いに触れることができるプログラムです。大学生がチームごとに地域の協同組合での仕事体験やインタビューをおこない、それをもとに学んだことを伝えあう報告会を開催します。全体企画として協同組合についての学習会や学生同士の交流会もあり、互いの気づきや学びを深め「協同」や「社会・地域・人とのつながり」を学びます。

他団体と協働することで発見したこと

「学生の受入れを通して自らの働き方に向き合うことにつながった」、「他の協同組織のことを学ぶ機会になった」など、学生を受け入れていただく団体の方からの声をきき、学生に協同組合を知ってもらう機会としておこなってきたことは、協同組合側にとっても改めて自組織、他組織を学ぶ場になり、働き方を考える機会になったということに気づきました。また、異業種の協同組合を学ぶ場自体がそもそも少ないということもわかりました。

活動において生協が担った具体的な役割

学生の仕事体験の受入れ、全体企画や振り返り会議への参加、紹介動画作成協力など。
体験受け入れでは、学生とキックオフ企画で顔を合わせ、学生が参加した目的ややってみたいことなどを個別にヒアリングして体験内容や日程を決めました。食品ロスに関心のある学生がいたことからフードバンクの取り組み見学の調整や、学生の居住地生協での配送体験の調整などをおこない、実習のまとめとして学生・職員間での意見交換などもおこないました。

成果として評価できる点

社会で働き、活動することは「協同」や「つながり」から成り立っている…学生のうちにそれを感じる場は地域コミュニティや学生生活の中で少なくなっています。本活動により、「協同」や「つながり」の重要さについて、関係者（若者、職員、大学教授など）が改めて認識する機会になったことは最も大きな成果です。特に、若者の社会や仕事に対するネガティブなイメージがポジティブになり、社会人になることが楽しみになった、「協同組合」に興味を持ったということ、さらには協同組合職員が自らの原点を再確認することにもつながったことや「異業種協同組合間の交流」や「社会的連帯経済の推進」にもつながったこともうれしい成果です。

将来イメージ

「協同を学ぶ」ことを目的としたインターンシップ事業の原型構築はできてきており、その成果も見えています。
本活動の継続は誰もが安心してくらせる地域社会を担う人を増やすことにつながると考えており、さらには広報等で活動を知ってもらうことで、参加者を増やすとともに、首都圏以外の地域でも「つながりインターンシップ@協同」を実践したいという団体がいた際には運営のノウハウ提供など協力をすることで、各地で「協同を学ぶ」若者を増やすことをイメージしています。

「就学援助世帯」を対象とするフードバンク活動

生活協同組合しまね　／　特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便

https://foodbankshimane.com

活動のきっかけ

2008年から生協しまねと松江保健生協で「地域づくり研究会」をつくり、地域の問題と課題について毎月開催を重ねる中、JAや社協も参加する「地域ケア連携推進フォーラム」（実行委員会）の取り組みをはじめました。そうした中で2017年に「子どもの貧困」をテーマに学習・交流をおこない翌年、試行的に「あったか元気便準備会」（労福協、グリーンコープ参加）を発足、今日に至っています。

活動内容概要

23年度は、「就学援助世帯」を対象にのべ2,075世帯、7,559人、32トンの食品を届けました。フードドライブには80の団体・企業の協力を得ることができ、ボランティアには、のべ1,390人が参加しました。さらに、「食品提供」から「くらしと子育て応援へ」をめざし、子どもたちには「学習と体験の場づくり」、お母さんには「おしゃべりと時間」の提供をめざし、他団体と「協働」して取り組みを拡充しました。

他団体と協働することで発見したこと

①それぞれの団体の特徴や優点をいかし、地域課題への取り組みにウィングが広がり、課題の改善や解決に近づくこと。さらには、その取り組みを通じて、それぞれの団体の「元気度アップ」につながったこと。②この取り組みの中でフードバンク活動への理解が広がること。③さらには、フードバンク自身が「協働づくり」の「ハブ」や「プラットホーム」としての役割を発揮できることを発見できました。

活動において生協が担った具体的な役割

事務局として職員を1名派遣し、商品の発注対応や商品の運搬等の対応をし、月に一度の事務局会にも参加し、運営についての意見交流もおこなっています。フードバンクしまね理事に生協しまね専務が就任しているというかかわりも持っています。それ以外には、組合員へ向け募金の呼びかけや役職員へのフードドライブの呼びかけ、また施設をフードドライブ品の受け渡し場所として提供するなどを役割として担いました。

成果として評価できる点

松江市の20校に利用対象を広げ、就学援助を受ける児童・生徒の約7割に利用対象を広げることができたこと。利用者アンケート結果にもとづき、「中学3年生進路・進学『応援塾』」をNPO法人スペース、島根大学研究プロジェクトと開催し、多くの受講生や学生ボランティアが参加できたこと。小学生の「学習と体験の場づくり」では、通信制高等学校サクラ学院と「夏休み野外体験」や「クリスマス会」を取り組んだこと。ひとり親のお母さんの「仕事と子育ての両立の悩み」に応え、地域つながりセンターの「子どもの笑顔応援基金」や「おたがいさままつえ・やすぎ」と「協働」して「お母さんのためのレスパイト応援」を取り組むことができました。

将来イメージ

向こう3年間に、松江市内のすべての小・中学校を対象として取り組むと共に、松江市外の自治体に「拠点づくり」をすすめること。さらには、「食卓応援」にとどまらず「くらしと子育て応援」の拡充をめざしてます。「子どもの権利宣言」の具体的な取り組みへの「接近」を中心とした課題ごとに地域の団体と「小さな協働づくり」を重ねることをめざしています。さらには、こうした取り組みを通じて、自身の組織の「元気度アップ」をはかり、「『困ったとき』は、おたがいさまのまちづくり」、「地域の子どもは地域のみんなで育てるまちづくり」をすすめる地域のまちづくりをめざします。

コロナ禍で生活に影響が出ている学生（高校、大学、専門学校生）や、つながり・交流の機会が希薄になっている学生等に対する食料支援や交流会の開催

大阪よどがわ市民生活協同組合　／　吹田市社会福祉協議会　／　吹田市社会福祉協議会施設連絡会

https://suisyakyosiseturen.seesaa.net/

活動のきっかけ

新型コロナウイルスによりアルバイト収入や実家からの仕送りが減った、学費が支払えないなど、学生生活にも大きな影響が生じていることがメディアで報じられたことをきっかけに、市内の大学に学生の生活状況のヒアリングを実施。ヒアリングを通じて経済的・精神的に困っている学生が多数いること、大学では学生の生活支援まで十分にできないことを聞き、学生への支援（食料品配布）を検討、実施しました。

活動内容概要

新型コロナや物価高騰等で生活に影響を受けている市内在住在学の学生を対象に食料品を配布。昨年度3回目の取り組みから対象を高校生にも拡大し、ヤングケアラー等、幅広い課題にアプローチできるよう工夫しています。食料品と共に相談窓口の情報や交流会に関する情報提供をおこない、学生の力を地域福祉の推進に活かしてもらえるよう働きかけながら、学生のニーズ把握や、学生と地域のつながりを持てるきっかけづくりをおこないました。

他団体と協働することで発見したこと

施設連加盟施設が食料品配布場所やフードドライブ受付場所として協力したり、生協では組合員への周知、協力呼びかけ、作業場所の提供、社協では地域諸団体との連携や事業周知をおこなうなど、それぞれの団体の強みや日ごろのネットワークを活かして幅広く活動することができました。

活動において生協が担った具体的な役割

- 実行委員会への参画（活動の具体的な内容やスケジュールや役割分担等の検討）
- 活動の周知（ホームページで取り組みの発信、吹田市の組合員へのフードドライブチラシ配布）
- 組合員を対象としたフードドライブ実施（回収実績 238kg）と回収した商品の保管、賞味期限チェック
- 仕分け作業場所の提供／多世代交流会への参加協力（ホームページでの取り組みの紹介）

成果として評価できる点

これまではコロナ禍で生活に影響が出ている学生を中心とした支援として取り組んでいましたが、コロナが5類に移行された後も、物価高騰等の影響で生活に影響が出ている学生を支援するために継続して学生支援に取り組みを続けたことや、対象を高校生にも広げたことで、スクールソーシャルワーカー（SSW）などの専門職から相談をお受けするなど、実際に支援が必要と考えられる世帯に情報を届けることができました。
このプロジェクトを通じて結成された学生ボランティア組織「コネクトリ」と今後連携できる活動について、懇談会の場を持ち、今後の取り組みを検討することができました。

将来イメージ

学生をはじめ若年層への支援の在り方について検討を続け、社会参加やつながりづくりなど、学生が主体となり多くの学生が力を発揮できる場を提供します。
また、学生が企画した交流会に、大阪よどがわ市民生協の組合員や地域住民、施設職員や利用者など幅広い世代の方にも参画を呼びかけ、多世代が交流し、互いの存在を理解し合うことで誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくりの一環になるよう努めるほか、企画段階から施設職員や生協職員など幅広い世代、職種が学生と協働して取り組むことも視野に入れ、活動をすすめます。
学生ボランティアの支援とともに組合員向けのスマホ教室等、連携した取り組みを検討しています。

ICTを活用した「地域での新たな見守り・買い物支援体制」研究開発事業

とやま生活協同組合　／　黒部市社会福祉協議会

活動のきっかけ

地域住民が社会から孤立することを防止し、異変を早期に発見して誰もが安心して生活できる地域づくりを目指すため、2021年度に黒部社協、旧富山県生協、旧CO・OPとやまで包括連携協定を締結しました。その中で、困りごとを抱えた地域住民に対する相談支援を、ICTを用いた見守り支援と買い物支援を1つのプラットフォームに集約し、さらなる「安心・安全・便利」の向上を目指していきたいと考えています。

活動内容概要

独居高齢者等の要支援者10名を対象にICT機器から「元気だよカード」をかざして押すことによりタブレットへ通知が届き、安否確認できる仕組み等を整備し、地域の互助機能をはかりながら相談支援にもつなげていくものである。音声案内機能により防犯情報や介護予防など幅広い分野で情報を伝達、ICTによる介護予防を検証し生活の利便性を提供するため、環境センサを用い居住空間の状況把握をおこなう。

他団体と協働することで発見したこと

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利害を明確に連携協働していくことが必要不可欠であり、とやま生協と黒部市社会福祉協議会が情報共有する場を定期的に設けたことでお互いの抱える課題や強みを確認し合うことができました。また、生協組合員で生活課題を抱えた高齢者に対してくろベネット事業に登録したり、宅配事業を通じて見守りや声掛けなどの支援をおこなうなどの連携協働もできました。

活動において生協が担った具体的な役割

とやま生協の宅配組合員にICT端末10台を配布・設置し、ICT端末に環境センサを取り付けました。黒部社協・とやま生協との定例会を開催し、ICT端末配布者の見守り状況の把握と環境センサによる一人一人の住環境（温度・湿度・照度・気圧・環境音・CO_2濃度）の測定結果から、高齢者の新たな見守り方法を協議しました。生活に関するお困りごとの相談対応をおこない、とやま生協の事業において対応をおこないました。

成果として評価できる点

今回のICT機器設置者の「元気だよカード」やボタン操作は、ほぼ毎日利用されていました。最初は抵抗感を示す方もおられましたが、簡単に使用できることで高齢者のICTへの抵抗感軽減にもつなげていくことができました。また、環境センサを取り付けたことで設置者の住環境を把握することができ、異変時には関係者と連携しながら支援することができました。特に昨年の夏は例年にない猛暑で部屋の温度を把握し熱中症の対策につながりました。「御用聞きカード」の利用から買い物支援等の相談があり、とやま生協で早期に対応し、生活支援に結びついたケースがありました。

将来イメージ

富山県東部エリアは、県内でも高齢化率が高く、とやま生協の宅配を利用している組合員も同様で65歳以上が約4割となっています。生協の宅配を利用できる年齢を更に引き上げていくために、ICT端末を利活用した見守りと御用聞きから組合員が生涯にわたり生協を利用できる環境を整えていきます。また、黒部社協のみならず、行政や他団体と連携して、住み慣れた地域で安心して暮らしたいと言う願いを実現させていくために、県東部エリアにおける3市4町1村全ての行政と包括的な連携協定を締結し、高齢者福祉に関する取り組みをすすめていきます。

なんでも相談会・フードバンク

北毛保健生活協同組合　／　渋川北群馬民主商工会

https://twitter.com/hokumouseikyou

活動のきっかけ

コロナ禍で貧困の格差が広がったことに対し、政府の対策だけでは助けられない貧困世帯への助け合い事業の必要性を考え2020年12月に実行委員会を発足してフードバンクを開催してみました。

活動内容概要

2020年12月に第1回「なんでも相談会・フードバンク」を開催してから毎年2回、子どもの休みに併せてフードパントリーを開催しています。

他団体と協働することで発見したこと

毎月1回の実行委員会を開催して参加協力団体を増やしてきました。提供してくれる団体や個人に呼び掛ける量が増え、2023年の冬の開催では、米の目標800kgに対して1tを超える量が集まった。また、各団体の得意分野を発見することができました。

活動において生協が担った具体的な役割

フードパントリーの場所の提供。提供品の受け入れ、相談の受け入れの窓口。不足品の手配、実行委員会の運営。

成果として評価できる点

回数を重ねるごとに来場者が増えている。2022年夏は225人、冬は309人。2023年夏は343人、冬には505人となりより多くの人々が来場しました。提供品、提供団体、関わってくれる個人が増えて来ている。コロナ禍だけは無く、物価高騰などの状況も垣間見れました。

将来イメージ

実行委員会構成団体と個人を増やし、この行動に参加する団体と人を増やす。地域の要求に併せて活動を変化させる。地域の要求に併せて子育て・医療・介護・就職支援活動をおこない、場合によっては、自治体等にも働きかけをおこなう。地域の見守り、つながり強化をおこない、SDGsに合わせた「地域から貧困をなくす」「気候変動問題を取り上げる」など「誰もがとり残されないまちづくり」につなげていく。当面は、フードパントリーの回数と相談窓口を増やすことと常設のフードバンクの運営を目指します。

福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、こども食堂を応援するプロジェクトVer2

エフコープ生活協同組合　／　東峰村えんプロジェクトの会

https://www.facebook.com/profile/100061302290129/search/?q=%E3%81%84%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%A6%E9%9B%AA%E3%81%A3%E5%A8%98

活動のきっかけ

当生協では、東日本大震災の直後から、特に福島県内の生協やJAとともに協同組合間協同による災害復興応援活動に取り組んでおりました。その後発生した「平成29年7月九州北部豪雨」災害では、逆に同県内から東峰村に駆けつけていただき、協同して支援物資・義援金の提供や仮設住宅での食事会などに取り組みました。その一環として開催した被災された方々同士の交流企画で本活動の案が生まれ、2021年度から継続しています。

活動内容概要

東日本大震災・福島第一原発事故により、一時は全村避難となるほどの甚大な被害を受けた福島県飯舘村において、災害・事故を挟んだ30年超の歳月をかけて開発された「かぼちゃ（いいたて雪っ娘）」を、「平成29年7月九州北部豪雨」災害で甚大な被害を受けた東峰村で栽培。収穫したかぼちゃを使った料理教室を開催したほか、本県内で開催される「こども食堂」などに提供し、活用していただきました。

他団体と協働することで発見したこと

さまざまな活動を通じて、少子高齢化と人口減少・中山間地域での遊休農地の増加などとそれらよって生ずる地域課題について、直接見聞きし、知識・経験を得ることができました。また、活動の準備・当日運営を協働する中で、協働・参画団体だけでなく、さまざまな団体やお立場の方々と新たな関係づくりができました。

活動において生協が担った具体的な役割

飯舘村側（いいたて雪っ娘プロジェクト協議会）と東峰村えんプロジェクトの会や、同会と「こども食堂」などをつなぐ事務や交流企画の開催を中心となりおこないました。また、活動にあたり、組合員などに参加を呼びかけるとともに、活動の準備・当日運営の一端を担いました。あわせて、それらについて、福島と福岡のふたつの災害の風化の抑制や応援意識を高めることなどを目的に、報道機関への発信を積極的におこないました。

成果として評価できる点

「東峰村えんプロジェクトの会」は、「平成29年7月九州北部豪雨」災害により東峰村内で供与された仮設住宅の元入居者を中心に結成された団体で、同住宅の供与期間終了後も、ご縁が途絶えることがなく今回の活動をはじめさまざまなとりくみを継続できました。また、同村は当生協組合員の約7割が居住される北九州・福岡両都市圏から車で60～90分程度でアクセスできる位置関係でもあり、組合員が休日に家族で参加できる場を提供できました。また、収穫したかぼちゃを、福島県飯舘村で開催された品評会に出品したところ、2022年度の銅賞に続き、2023年度は金賞（最高賞）といった評価をいただき、供給に向けた自信につながりました。

将来イメージ

ひきつづき、本活動を通じた飯舘村側（いいたて雪っ娘プロジェクト協議会）との交流が、ふたつの被災地域の災害復興の励みにつながればうれしく思います。また、「令和5年梅雨前線による大雨」による大きな災害の発生により、2023年度に実現できかねた活動（「こども食堂」に参加されるこどもたちを招いた観察会や商品開発と生協での供給）をあらためて計画するとともに、新たに、地球環境問題に配慮した農業資材を活用した栽培にも取り組み、将来にわたる持続性・自立性の道筋を立てたいと考えています。そのことは、生協商品の利用を通じた「活動への参加」という視点でみた場合、多くの組合員の共感と参加が期待できるものと考えます。

DV被害者および母子家庭等貧困世帯の DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための活動

特定非営利活動法人DV対策センター　／　東都生活協同組合

https://dvtaisaku.jp

活動のきっかけ

未来につなぐ募金2021年度助成団体として登録されたことがきっかけで、DV対策センターの活動について知り、その活動を高く評価し、協力・応援したいと思うとともに、2017年に組織確認した「東都生協福祉政策2025」でも掲げている、地域の人々の生活上の不安や困りごとに寄り添い、誠実に向き合いながら一緒に問題解決の糸口を探していくということに合致しているため協働するに至った。

活動内容概要

① 毎月第三日曜日に、子育てやDV防止などに関わる啓発セミナー開催
② 毎月第三金曜日に野菜と食品を配布、第三土曜または日曜日のセミナーに参加してくれた方に宅配にて配布
③ 年4回の子ども向けイベントを開催。5月（新緑バーベキュー）、8月（夏祭り）、12月（クリスマス）、3月（進学お祝い）
④ 虐待を受けた子どもや孤食の環境にある子ども達へ毎月1度、お弁当を配布

他団体と協働することで発見したこと

東都生協のご担当者様に、実際の団体のシェルターに足をお運びいただき、利用者の現状についてご説明させていただく機会を設けさせていただき、本活動についての必要性や活動理念についてより強い共通認識を持つことができました。また、当団体の活動チラシを組合員様向けに発行いただき、本活動や団体についての認知向上に貢献いただきました。チラシを見た組合員さんより食品や衣服などのご寄付をいただき、関心の高さを分かち合えました。

活動において生協が担った具体的な役割

毎月野菜や果物から嗜好品に至るまで、多くの食品をいただいております。
その他、毎月活動に必要なティッシュ、トイレットペーパーなどの備品等、利用者さんの生活を支える用品もご提供いただきました。
さらに、組合員様向けのチラシに、当団体のセミナーイベントをご掲載いただき、組合員さんに当団体の認知向上を支えてくださいました。チラシを見た組合員さんがDV加害者、ヤングケアラー等のテーマの際に聞いてくださいました。

成果として評価できる点

① 啓発セミナーに関しては、今年度通じて延べ400名以上の方々にご視聴いただき、当団体の講座を日本全国の方々へに届けることができました。
② 食品配布に関しては、東都生協さんの協賛により、通常食品に加えお野菜や嗜好品など充実した内容を日本全国の利用者に届けることができました。
③ 子ども向けイベントに関しては、全イベントを累計して、延べ150名近くの母子・若者に参加いただきました。
寄付者、スタッフも含め、夏祭りでは100名以上、クリスマス会では80名以上の方々に参加いただきました。
④ 月1度のお弁当配布では、276名の母子にお弁当を届けることができ、子どもの孤食、孤立防止に寄与しました。

将来イメージ

DV・虐待の被害を受けた女性や若者、子ども達への啓発活動は、月に4回以上やる、というペースができ上がってきた。当方を利用して避難した方は、啓発活動を通して、暴力容認の思考を書き換える、倫理観是正、自己肯定感の向上などに成功している。
しかし世の中には、DV・虐待の末に、加害者を刺してしまう、犯罪に手を染めてしまうなどの連鎖を受けている者もおり、今後は、犯罪加害者となってしまったDVの影響を受けた人を救済するためにも尽力したい。
エンパワメント講座やトラウマケア講座、シングルマザーがきになる様々なテーマなどを扱い、啓発することで、これらの人が幸せになっていくことを助けていきたいと思います。

ちいさなやさしさ市場

群馬中央医療生活協同組合　／　NPO法人はじめの一歩

https://www.facebook.com/profile.php?id=100064981585242

活動のきっかけ

協同団体であるJOYクラブのメンバーからフードロスを抑えるための野菜販売を持ち掛けられたことがちいさなやさしさ市場が始まるきっかけとなりました。
定期的に開催することにより、市場に常連のお客さんが増えたことはもちろん、出店団体どうしの横のつながりができたり、そこに参加することで自分の居場所や役割を見つけられた方がおり、始めて数か月で目に見える変化がありました。

活動内容概要

毎週水曜日午前中、前橋協立病院敷地内で市場を開催しています。非営利団体や障がい者の就労支援団体などが出店し、野菜、パン、総菜、焼きまんじゅうなどを販売し、来場した方に買い物や交流を楽しんでいただいています。

他団体と協働することで発見したこと

自生協の活動だけでは気づかない視点を発見することができました。食糧支援の物資の集め方を教えていただいたり、生協ではなかなか思いつかない視点で物事を見ることができるようになりました。

活動において生協が担った具体的な役割

他団体同士のつなぎ役や、悩みや問題を抱えている方を必要な支援や組織へつなぐことができました。

成果として評価できる点

「ちいさなやさしさ市場」が広く周知され、それを目的に来場する方が圧倒的に増えました。地域のみなさんの買い物を楽しむ場、市場に来た人同士の交流の場として定着したことがはっきりと実感できます。

将来イメージ

来年度から事業所の統廃合に伴い空く建物があるので、将来的にはそこで市場の開催と交流スペースの開設を検討しています。

あったかフードバンク大泉

東京保健生活協同組合　／　あったかフードバンク大泉

https://tokyo-health.coop/activities/forsocialproblem/foodbankpantry/oizumi.shtml

活動のきっかけ

2020年の新型コロナウイルス感染症の蔓延による、経済的困窮の広まりから、当生協の組合員の作る委員会議内で、食糧支援の必要性について議論が始まり、組合員有志で実行委員会を結成しました。2021年3月から、食糧支援活動を開始し、その後も、ロシアによるウクライナ侵攻や円安などを要因とする物価高騰が相次ぎ、食糧支援活動を継続しています。

活動内容概要

毎月第3金曜日に、大泉生協病院の組合員ルームを使用し、開始当初は約30人、現在は約140人の利用者に食糧支援を行っています。各支部の便りで実施状況を知らせ、「困ったときはお互い様」をモットーに毎月近隣のパン屋さんや農園、生協連、組合員、職員などからお米や野菜などの物品提供や寄付などで続いてきました。2022年度からはCO・OP共済「地域ささえあい助成」のおかげで、物価高騰により物資調達の費用が以前よりずっと必要になっているので大変助かっています。当日取りに来られない利用者さんには配達や取り置きを行っています。また、利用者さんとしていらしていたが、しだいに手伝ってくれるようになった方もいます。

他団体と協働することで発見したこと

東都生協やパルシステム東京などの購買生協は、フードバンクへの関心が非常に高く、余剰野菜などを使ってのフードバンクへの支援の方法を常に考えていることがわかり、今後もフードバンクを通じて、協働を深めていけると感じました。また、社協など区とつながりのある施設が、困窮者支援のためにフードバンクとのつながりを模索していることもわかり、今後もフードバンクへの品物の寄付など、協働が期待できることがわかりました。

活動において生協が担った具体的な役割

開催当初は開催の際の感染対策指導をし、感染対策に努めました。組合員ルームや大泉生協病院前の開催場所の提供をしています。また、フードバンクには大泉生協病院のMSWや病院内社保委員会のメンバー、研修医などが参加し利用者の健康チェック（血圧、体脂肪、握力）や生活相談などもおこなっています。

成果として評価できる点

あったかフードバンク大泉は毎月定例開催しているので、利用する方は、見通しが立ちやすいようです。多くの方が継続して利用しています。「ここがあって本当に助かる」と感謝の言葉もいただきました。もう4年も続けているので、利用者さん同士が親しくなったり、実行委員同士が以前よりも深いコミュニケーションをとれるようになったりしています。また、今まで見えなかった地域の貧困の状況もわかるようになりました。この活動を通して、地域の福祉グループや地域のパン屋さん、社会福祉協議会、CO・OP共済、購買生協、今まで活動していなかった組合員さんの参加、など新たなつながりが生まれました。

将来イメージ

あったかフードバンク大泉は、今年で4年目になりました。毎回、資金を心配しながらの活動でした。どう実施していけばよいかを考えるので精一杯で、将来のビジョンは話し合えていない状況です。しかし、利用者と接していると、フードバンクはまだまだ継続が必要と思われます。今後、地域の福祉ネットワークとの連携、協力団体と協同で自治体に長期的対策を求めることなどを考えています。そして、スタッフや資金をどう増やしていくかも課題です。どれも、あったかフードバンク大泉だけでは解決できません。協力団体と情報を共有しながら進めていき、良い方向に向かうことを期待しています。

コープのびのびクラブ・ぴよぴよクラブ

広島中央保健生活協同組合　／　ふくしま文庫

http://www.hch.coop/

活動のきっかけ

当生協の事業所内で出た要望に応え、ふくしま文庫とともに、「子育て世代が気軽に集まれて、相談できる場所を地域に作りたい」という思いから、協働して活動への賛同者を募り、「コープのびのびクラブ」を発足。その後乳幼児を育てる保護者のための「コープぴよぴよクラブ」も活動を開始した。
現在も活動をもっと広める為に、当生協の活動理念に共感し、協力して下さる方を探しながら、協動で活動を続けている。

活動内容概要

主に広島市西区の地域に暮らす子育て中の家族、および当生協の小児科などの利用者の方々が集まり、子育てや健康についての情報交換をしたり、利用者同士がつながりを持ったりできる場をつくる。広場開放時におこなうミニ講座、ボランティア参加を通して、地域の活動家、団体とのつながりを作る。また、広島中央保健生協から小児科医・看護師・保健師・保育士・歯科医師・歯科衛生士などが子育てや健康についてアドバイスをおこなう。

他団体と協働することで発見したこと

主にコープのびのびクラブのミニ講座に参加していただくなどの形で協働をおこなっている。参加される中で、お母さん方とコミュニケーションを取られて、ふくしま文庫を知って来館者が増えたり、地域で読み語りをされている学生さんを紹介していただいて招待したりして地域活動の輪が広がった。それぞれの活動の中で出会える人が違うので、一緒に活動していくことで、さらに新しい出会いを広げ、活動への参加者を増やしていけることがわかった。

活動において生協が担った具体的な役割

コープのびのびクラブ・ぴよぴよクラブ運営の事務局として、実際に子育て広場の運営を担当している。また、この活動を通し、地域で活動する方とのつながりを作ること（地域の体操教室をされている組合員への協力の要請）などを通し、子育て世代と地域の方との関りを増やすために尽力している。また、地域の方々のボランティアを通した社会参画を後押しする役目も果たしている。

成果として評価できる点

昨年度は323組679名がコープのびのび・ぴよぴよクラブに参加されたが、今年度は364組775名が参加された。3月に開催した第19回子育て応援企画には、19組50名の親子が参加した。その中には未加入の方が8組おられ、広島中央保健生協を知っていただく良い機会となった。子育て広場では、事業所の専門職職員を講師に迎えて学習会を開催しているが、そちらへの参加から、事業所利用の増加にもつながった。また、講師依頼を通じて地域活動を活発にしている方々とつながることができた。子育て広場に来ていただいた楽器の演奏者が、組合員活動のイベントに招待されるなど、子育て広場の活動を通して生協の輪が広がった。

将来イメージ

将来は、当生協の他の事業所などにも、子育て広場を展開していきたい。また、現在はお子さんの見守りは主に生協職員が担っているが、地域にボランティアを広く募り、地域の人々が、その地域の子育て世代と知り合い、あたたかく見守っていける場所にしていきたい。また、当生協の小児科の利用委員の選出や、子育て広場の利用委員を選出し、利用するお母さん方とともに作り上げていく「子育て広場」「小児科」にしていきたい。地域の子育て世代の方々が一人で悩んでしまうことのないよう、安心できる居場所を提供できるような場所を目指して活動を続けていきたい。

協働ステーションではじめる地域の大切な記憶の共同学習

生活協働組合コープぎふ　／　社会福祉法人いぶき福祉会

https://www.youtube.com/playlist?list=PLTVyqA1tGxP3LQwK_zC7QlUKV_IGY5KZb

活動のきっかけ

いぶき福祉会とコープぎふは地域協働のパートナーとして28年間の歴史があります。その中で、6年前からいぶきの事業所とステーションを連携させた協働ステーション構想がうまれ、2019年からの5年間は、貴助成もいただきながら、コミュニティーガーデン、マルシェ、それらを伝えるかわら版配布を通じて、より顔の見える関係づくりをすすめてきました。さらに協働をすすめるにはより主体的に共に学ぶ場こそが大切だと思いました。

活動内容概要

5月から2月にわたり共同学習の場を5回開きました。第1回と第5回は原爆被曝者の実体験、第2回は東日本大震災を体験した方から防災について聴きながらのワークショップも開催。第3回は岐阜空襲の体験を聴きながら平和のことを学びました。第4回は外国籍の方をまじえての料理交流をおこない、地域の方も交えた学習になりました。いずれにおいてもいぶき利用者が学習会の前後にインタビューや取材をした動画を作成活用しています。

他団体と協働することで発見したこと

いぶきと協働することで、より広く地域の多様性に触れた気がします。障がい者のことを学ぶことはあっても障がいのある人と学ぶことはありませんでしたし、いぶきの開かれた場を会場にすることで障がいのある人だけでなく、子どもから年配の方、外国籍の方までいろいろな世代の方が、堅くなりがちなテーマでも柔らかな空気の中でこんな風に学ぶことができることで、集まれることが平和や安心そのものだと再発見しました。

活動において生協が担った具体的な役割

共同学習会をピースカフェと名付け、コープぎふ主体で取り組んでいます。テーマはいぶきとコープぎふとの定例会議で決め、講師の人選や依頼、学習資料の提供も担当しました。また、地域や組合員の参加者募集、受付進行などの当日運営、食材（第2回の備蓄食、第3回のすいとん、第4回の五平餅やボルシチやおにぎりなど）や飲料の提供もおこなっています。第3回でいぶき利用者が戦跡を取材する際の調整案内や当日のサポートもしました。

成果として評価できる点

会場「日光町の家」は、いぶきが「開かれた対話と創造の場」として大切にする場所です。これまでいぶきの活動にコープぎふが応援参加することが多かったのですが、平和や防災をテーマに協働する意識が深まったと考えています。また、いぶきの多様性と柔軟性と地域に根付く力をうまく取り込むことができた気がしています。異文化交流や食というテーマを組み合わせることで、より自然に平和の学習もできたり、会名称も参加者の対話の中でピースカフェからハッピーを掛け合わせたハッピースカフェにあらためたり、何よりコープぎふ内だった活動が、多様な人の多様な参加関与のある場に裾野が広がりました。来年度も自主財源で継続します。

将来イメージ

4年前から描いてきたことを少しずつ積み重ねていて、その方向は変わっていません。棚上げになっていたコープぎふのステーションの移転も規模を縮小することで早期実現を模索しており、いぶきとの協働でステーションを地域の憩いと学びの場にする意向です。また、現在暮らしの活動部のサポーターを募集しており、そういう人たちが地域で活動する拠点にできると考えています。コープぎふとしては地域のつながり作りのモデルとして、県内への展開する展望が持てつつあり、いぶきとしては掲げているソーシャルキャピタル（社会関係資本）の醸成の具体の場として表現していきたいと考えており、相乗効果を生み出すことができると思っています。

小学校での放課後学習教室運営と放課後学習教室運営の支援

生活協同組合コープこうべ　／　がんばるもん実行委員会

https://ganbarumon.info/

活動のきっかけ

中学生の学習支援をしていた時に、小学生での基礎のつまずきが気になりました。中学生になってから遡って復習しようとしても、基礎がわからないまますすむ学習に諦めてしまう生徒がたくさんいました。そこで、小学生で家庭での学習環境のままならない、その学年で履修するべきことを理解しないまま進級しそうな児童を対象に、学習習慣をつけ、問題が解けた時の喜びを体感することを目的に、学校と連携した放課後学習教室を始めました。

活動内容概要

小学生の放課後学習会の運営や活動の告知、ボランティアスタッフの募集と養成研修を重点的におこないました。新しく桜の宮、向洋、千鳥が丘小学校が放課後学習会を始めました。読み、書き、計算の力をどのように定着させるかを各学校の先生と相談、その学校の特色にあわせて教材を準備しました。また、学校と市民、保護者を結ぶ取り組みとして継続してきたシンポジウムと不登校を考える講演会を主催。他の団体との連携もすすみました。

他団体と協働することで発見したこと

企画をするにあたっての準備の早さや具体案、それが上手くいかない場合の代替案の立て方など、イベントを開催するときの流れを協働していく中で学ぶことができました。また、私たちの中では学校に人が足りないという誰でも知っていると思っている現状が世間ではまだまだ認知されていないこと、学校の役割、家庭の役割、親の責任、などは世代間によって大きく違うことなども発見しました。共通認識の大切さを再確認しました。

成果として評価できる点

コロナが5類になり本格的に活動できるようになったことで、昨年度の将来イメージに揚げたコーディネート役の研修をすることができました。校長先生の口コミで北区鈴蘭台小学校での開室が決まり打ち合わせのときは、学校支援する団体としてコープ鈴蘭台店と一緒に招かれたように、この3年間でコープと一緒に作っている放課後学習として認知されるようなりました。恒例のシンポジウムは、継続していることで認知され教育委員会が後援してくれることが増え保護者からの信頼が増しました。秋には他の7団体と一緒に企画しその過程で各団体の特色を活かし悩みを相談したり工夫していることを学んだりでき今後の伸びしろを感じています。

活動において生協が担った具体的な役割

学校教育について保護者と教員の関係性をテーマとしたシンポジウムの企画・運営や広報を連携して実施しました。また、放課後学習にボランティアとして職員が参加しています。普段の事業では接点をもちにくい、子育て世代や学校、教育関係の方と交流が持てる貴重な機会をつくることができました。「えんぴつドライブ」では、コープこうべの店舗で文房具を受付、同時に放課後学習の活動周知もはかりました。

将来イメージ

神戸市内の全校に学習会を設置する。実施校ごとに児童と同数のボランティアスタッフを確保し子どもとの寄り添いはマンツーマンで対応する。全学年を通して実施することで中学入学までに九九、割り算、分数は一人でできるようになることを目指す。子どもに関わりたい校区内の人を発掘し校内サポートルームや支援学級のボランティアなど学校が必要とする人を紹介するなど学校と地域住民をつなぐ役割を目指す。ボランティアスタッフ同士の関わりは緩やかに長く継続してもらうことを目指す。1校に一人以上のコーディネート役を置き区単位で横の連携もはかる。学校運営協議会の一員となり学校を支える楽しさを地域住民に知ってもらうきっかけを作る。

フードバンク活動でこども食堂と食品提供事業者の顔の見える関係づくり

福井県民生活協同組合　／　こども食堂ネットワークふくい

https://www.fukui.coop/fukui-foodbank/files/fukui-foodbank-activityreport_202312.pdf

活動のきっかけ

フードバンク活動やフードドライブ活動を通じてつながってきた、福井県内のこども食堂とフードバンク食品提供事業者（お取引事業者や県内の地域スーパー）のつながりを促進するために、2022年9月食品提供事業者を中心に「福井県フードバンク連絡会」を設立（福井県民生協が事務局世話役）した。日常的なフードバンク活動の継続をはかるとともに、こども食堂ネットワークふくいと福井県フードバンク連絡会の交流を促進する。

活動内容概要

年3回のフードバンク活動を、こども食堂ネットワークふくいと連携して、福井県内の子ども食堂に定期的、継続的に食品の提供をおこなうこと。余剰食品に加え子ども食堂のニーズを受け、プラスの食品・日用品を提供した。
さらにフードバンク連絡会に加盟する団体と県内子ども食堂との顔の見える関係づくりをすすめるため、12月18日交流会を開催し、子ども食堂の活動報告と石川県のフードバンク活動の事例学習をおこなった。

他団体と協働することで発見したこと

交流会の中で子ども食堂2団体より活動内容の報告を受けたが、子ども食堂の役割が、単なる親子の食事支援だけでなく、親子の居場所づくりや世代間交流、学習支援、地域との交流の場として多様な機能を持った活動であることを改めて認識することができた。
また、今回いしかわフードバンクネットの事例を聞いて、石川県内でのフードバンク団体や子ども食堂とのつながりや支援の枠組みについて勉強できた。

活動において生協が担った具体的な役割

福井県フードバンク連絡会の事務局として、年3回のフードバンク活動の企画実施、食品等の収集と希望団体への仕分け、県内拠点への転送と提供。子ども食堂に対して県内外から寄せられる食品提供に対して、随時対応して仕分け転送（2月お菓子・ひなあられ提供）
食品提供事業者と子ども食堂ネットワークふくいとの顔の見える関係づくりの促進として、12月交流会の企画準備と実施。

成果として評価できる点

昨年から続く物価高騰のなか、子ども食堂として食品以外に必要とする日用品のニーズを受けて、フードバンク食品に加えて、ティッシュペーパー、食品ラップ、洗濯用洗剤、その他連絡会事業者より寄せられたノートなど文具類を提供し、支援内容を充実することができた。
交流会では2団体からの子ども食堂の活動発表を受け、居場所づくりや地域との交流を通じて活動する多様な子ども食堂の機能について、食品提供事業者としても共有することができたこと。いしかわフードバンクネットの事例報告を通じて、福井県と石川県のフードバンクと子ども食堂とのつながりを広げることができた。

将来イメージ

フードバンク連絡会の活動を通じて、フードバンクやフードドライブの活動への共感を広げて、他の県内事業者の活動への参加をひろげていくこと。福井県社会福祉協議会との話し合いをすすめ、さらに社協や行政も巻き込んだ福井県のフードバンクネットづくりをめざす。その中で、ドライ食品だけでなく、冷凍食品等の余剰品の受け入れについても体制の整備を検討していきたい。
現在石川県・富山県・新潟県のフードバンク団体との交流をすすめており、北陸フードバンクネットワークに参加することを通じて、全国の情報の共有と県外からの余剰食品の提供を受けて、県内の子ども食堂や社協などを通じて必要とする方への食品提供の充実拡大をはかる。

いのちとくらしの映画祭2023（映画＆講演会）

生活協同組合コープ自然派兵庫　／　認定NPO法人フードバンク関西　／
生活協同組合コープこうべ　／　こわすな憲法！いのちとくらし！市民デモHYOGO

https://www.hyogo.shizenha.net/report/34370/

活動のきっかけ

市民活動団体とコープ自然派兵庫で、子どもの貧困問題について企画した映画上映会が協働のはじまりでした。その後開催した講演会のブース出展者として参加されたフードバンク関西も活動に加わり、2018年からは、いのちとくらしの実行委員会として活動を続けています。2019年度からはコープこうべも参画し上映会と講演会をメインとしたいのちとくらしの映画祭を年1回開催しています。

活動内容概要

今年も映画と講演をメインとした映画祭を開催することができました。上映した映画は高橋伴明監督の「夜明けまでバス停で」、講演は料理研究会であり社会活動家の枝元なほみさんにお越しいただき「お腹も心も満たせる『場』づくり」と題して、食と居場所についてお話いただきました。また、弱者の立場に寄り添い活動をされている8つの活動団体にブース出展をしていただき、活動発表や展示、販売をしてもらいました。

他団体と協働することで発見したこと

単体の活動ではつながることができなかった団体と出会い、それぞれの団体の持つ強みを活かし映画祭を成功させることができました。年に一度の映画祭ではありますが、映画祭開催までに実行委員会を重ねており、会議は映画祭の企画準備だけでなく、各団体の活動報告と情報交換の時間を大切にしていました。各団体の活動を知ることは、地域課題や現場で必要とされていることを具体的を学び、モチベーションアップにもなりました。

活動において生協が担った具体的な役割

事務局として実行委員会の日程調整、会議準備、会場手配、議題等の資料作り。映画祭ではチラシの作成印刷、HP掲載、会場手配、講師や出展団体との調整連絡、参加申込の受付、イベント当日はフタッフとして実行委員会以外の役職員も加わりました。

成果として評価できる点

貧困をテーマに活動をしており、貧困問題のなかでもどこへ焦点を置くかテーマを議論し、映画を選定し、講師を依頼しました。この度上映した映画は邦画で実際おこった悲劇から想を得て作られており、普通にくらしていた女性がホームレスになってしまった話。一見「豊かに見えるこの国」の歪みを問いかけ、他人事でなく自分事として考える機会となりました。講演会では食と居場所、食べ物を差し上げることは「生きて」の願いがこもっていることを学びました。また、女性の貧困にクローズアップできた面も良かったです。自分らしく生きることのできる社会を目指し支援を続けている団体を多くの方に紹介できたことも成果として上げたいです。

将来イメージ

アンケート回答から、映画の選定や講師のお話に高い評価をいただき、継続開催を求める声もたくさんもらいました。三年間地域ささえあい助成に応援していただき、映画祭を開催する力を身につけることができました。複数の団体、個人がともに協働し「いのちとくらしの映画祭」をこの先も継続して開催していきたいと考えています。継続することから地域団体との連携を深め、先には地域自治体や企業とも関わり、活動を展開してまいりたいと思います。貧困は他人事ではないことを参加しやすい映画や講演会を通し、多くの人とともに学び、気づき、誰もが自信をもって生きていくことのできる社会を目指します。

エフコープとNPOが協働で取り組む地域の子育て家庭を応援するフードパントリー事業

エフコープ生活協同組合　／　特定非営利活動法人チャイルドケアセンター

活動のきっかけ

2016年11月から太宰府支所で食材の保管協力をいただいていたが、取り扱い量が増加してきたことで、マンパワーが不足してきた。そこで、組合員さんやボランティアなど、活動に参画してくださる方だけでなく、活動の理解者を増やし活動が継続的にできるような仕組みを考える必要があった。早急に食品ロスの削減や、困窮世帯などへの適切な支援をより充実させることが課題となっており重要であった。

活動内容概要

福岡県筑紫地区子ども食堂30か所の生活困窮者を含む子育て家庭を対象に、エフコープ大宰府支所のプラットフォームを利用して、食品を無料で提供するフードパントリー事業を年間で48回実施した。毎回、約30団体の子ども食堂から、延べ1,500人のボランティアが集まり一緒に活動をおこなった。食材については企業や個人の皆さまからの寄付で賄い、それぞれのエリアに持ち帰ったのち毎回約2,000世帯への配布をおこなった。

他団体と協働することで発見したこと

NPO法人と協働することにより、子ども食堂の運営者や子ども・保護者などの利用者とつながることができ、食品の配送を通じてささえあうことの大切さを体感することができ、それは大きな発見だった。また、この事業では多くのボランティアや支援者の協力によって活動がおこなわれていることがわかり、これからの社会活動において多くの人たちとの連携が大事だということを改めて実感することができた。

活動において生協が担った具体的な役割

年間通して（8月以外）、毎月第2木曜日開催。2024年3月で通算48回目。開催日前日に福岡県フードバンク協議会より物資を太宰府支所に転送を実施。併せて、開催日の午前中に生協スタッフ数名による支所での仕分け準備を実施。仕分け用カーゴ車に「たすけあい助成」ロゴマークを印刷した団体名を表示、併せて、ロゴマークをあしらった横断幕を掲示。別途、マスコミに対し、開催を知らせるニュースリリースを実施。

成果として評価できる点

エフコープとNPO法人と打ち合わせを丁寧におこなったことでパントリーの開催がスムーズにすすんだ。大宰府支所のプラットフォームが広いため、福岡県や企業、団体からの視察受け入れも十分に対応でき、この活動の先進的な運営スタイルの啓発にもつながった。実際視察に見えられた、他NPO法人や他市町村からは、フードバンク活動を今後運営するにあたりエフコープが持つ流通システムの知見を共有でき、大変勉強になったとの声が届いている。
エフコープの内外に情報を発信することで、フードバンクや子ども食堂の活動、食品ロス削減推進などに興味を持ってくださる方が増え、地域への開催周知にもつながった。

将来イメージ

子ども食堂の多くはボランティアにより運営されており、日々の活動における運営の人材確保・運営費等が大きな課題となっている。今回各団体へ輸送費補助をおこなったことにより、すでに実施されている団体が大変助かったとの意見が多く聞かれ、活動継続へのはずみとなったと考えられる。
さらに、今回組合員の皆さまへ子ども食堂やフードバンクの講演活動をおこなうなど参加を募ったところ、20名程度の参加者があり、今後の活動の人材確保への道筋が見えてきたように思う。今後、組合員の皆さまに対してはフードパントリーのサポートを呼び掛けて協働することにより、子ども食堂の発展に一層取り組み、継続していけると考えている。

殿川資源を活用した環境再生・持続可能な未来を感じるこども音楽アトリエ・コミュニティースペースつくり

殿川の活性化に取り組もう会　／　市民生活協同組合ならコープ

https://www.facebook.com/soratoto.tonogawa

活動のきっかけ

イベントやワークショップに参加するなどで殿川を知り、移住者やまた、殿川の活性化に取り組もう会に参加し関っていただける方が増える中で、自然の中で訪れた人が心休め、またアトリエや音楽芸術の力で色々な刺激や交流が生まれる場として、新しい過疎地区のあり方、新しい価値観を見いだせていける役割を担いたいと思ったから。

活動内容概要

殿川自治区をフィールドとし移住者定住者で持続可能な地域づくりに関する公益活動をしている。空き家紹介や、殿川から発信できる商品開発、また様々なイベントを企画し学生や県外から人を招き入れるなど、殿川の周知だけでなく奈良・吉野内をつなげ、全国へ自然豊かな殿川を発信しより未来にむけて豊かな暮らしを提案、活性化をはかっている。

他団体と協働することで発見したこと

ならコープさんと協働させていただき、やはり現地に足を運んで現地でできることを一緒に考えていただいたり、殿川集落という、インフラも整っていない来にくい地域特有の現地での問題点も感じていただき、だからこそのサポートなど、コロナが明けてリアルで会えるようになってきたからこそ、対面で取り組めることの素晴らしさを改めて発見しました。

活動において生協が担った具体的な役割

イベントのチラシをならコープのHPに掲載していただくなど、宣伝広告の協力と、イベントでのならコープの活動の説明や、子どもたちへの文具の提供などでイベント内容にも積極的に参加していただき、イベントをサポートしていただいた。また、実際に足を運んでいただき吉野の子どもたちや地域の方々に一緒にイベントに参加していただき、地域のみなさんとの交流をはかっていただけた。

成果として評価できる点

吉野町はもちろん全国各地の方々や、イベント参加していただいた方にならコープさんの活動を殿川を通して知っていただけたこと、また、今回は、場所や会場の安全性の向上ができたので、（電気の設置、看板等）今まで続けてきた<大地の再生>や<こどもたちへの自然の中での音楽ワークショップの取り組み>の継続が、助成を受けて可能になったこと、そしてならコープさんとの協働によって自分たちではできない内容が広がり充実したこと。それによって地域の人たちに安心して楽しんでいただき、厳しい山の上の集落内でも行きにくい、活用しにくいなどのイメージから楽しい、気軽に来れるというイメージに変えてもらえたこと。

将来イメージ

殿川を代表に、限界集落であり過疎の地域の高齢者が殿川の村内の清掃や維持を継続するのが難しい問題など、過疎地域に人が訪れる必要な労力なども担える様に、今後もそういった過疎地域の問題点も楽しく参加していただきながら学び、また一緒に解消できるような内容のイベントを企画運営していきたい。そういったイベントの企画や運営も発信していき、誰かが負担にならないように、人を募集するなどして、地域がよくなるみんながもっと楽しくなるキッカケつくりさえもみんなで支えあっていく大切さを学んでいきたい。来年度は助成が受けれない分今の現状でできることを引きつづき維持して活動していきます。

地域住民の買い物支援、高齢者見守りおよび生きがい創出などの地域支援関連活動

生活協同組合コープあきた　／　NPO法人南外さいかい市

https://n-saikaiichi.sakura.ne.jp/

活動のきっかけ

平成25年にスーパーが閉店して以降、地域内での生鮮食品や生活必需品の買い物に不便をきたしました。自ら解決をする為に「公設民営」の店づくりを検討し準備をしてきました。山間部で孤立した限界集落の買い物支援、高齢者の孤立とひきこもり支援、高齢者が集う居場所の運営、孤立やひきこもりの緩和からイキイキと楽しく暮らせる限界集落を目指す取り組みをおこなう。地域住民の買い物支援および生きがい創出などの地域づくりの為。

活動内容概要

健康サロン開催(毎月第2金曜日)元看護師、元養護教諭を迎えて、健康相談や健康体操をおこなっている。また、昔語り鑑賞・大仙民話の会(民俗行事の再現)・風船バレー・フロアーボーリング・食事会(小豆汁、かき氷、綿あめ、お茶タイム等)・南外小唄(カラオケ)・草刈り(除草剤散布)など、外に出る機会を設け、少し体を動かす機会と工夫につなげ、健康維持や暮しの楽しみにつなげた。

他団体と協働することで発見したこと

コミュニケーションを頻繁にとることの必要性、イベントや行事の計画に参画すると共に当日も参加することが必須。殆どボランティア活動になっていること、労働や活動に対して対価(最低賃金)がおぼつかないのをどうするかが今後の課題。

成果として評価できる点

限界集落において、スーパーが無く買い物難民救済に向けた活動支援として、物販や商品納入の協力支援として協働した。

活動において生協が担った具体的な役割

商品調達としての仕入れ先の確保、各種行事への企画立案・運営に参画、ボランティア派遣の支援および参加と資金協賛。

将来イメージ

日々毎日ではないにしても、年間の中で行事という楽しみを提供することで、待ち遠しいとか楽しみとか日常の変化を受け取れることが高齢者や過疎地には必要だと考えます。生きがいや生きている意味を感じるためにも今後も継続することが大切と感じています。また、買い物難民や不便を感じている人もまだまだ多く、今後も増える傾向にあり対応できる環境づくりが課題となるのが見通せる為、担い手を準備するとともに運営イメージの構築が必要と考えています。ある程度孤立から集落の1か所化も検討する将来イメージが必要と思っています。

SDGsを活かした地域コミュニティづくり

生活協同組合パルシステム千葉　／　フードバンクちば　／　ワーカーズコープちば　／
淑徳大学コミュニティ政策学部 消費者法研究室

https://www.shukutoku.ac.jp/news/nid00002663.html

活動のきっかけ

パルシステム千葉はコミュニティ生協として、くらし課題解決に取り組むことを方針としています。同時に、パルシステムの事業・活動は一人ひとりの「エシカル」な選択でSDGsの実現を目指しています。こうした背景を元に、地域社会が抱える多様な課題に対し、SDGsの観点から、生協と地域団体や大学がお互いの特色を活かして連携し、地域コミュニティづくりに取り組みたいと考え、2022年度に続いて活動してきました。

活動内容概要

SDGsを活かした協働した取り組みは今年度で3年目となり、今年度はそれぞれが企画する取り組み（SDGs食育講座、コミュニティガーデンづくり、淑徳大学「SDGsから考える消費者問題を学ぶワークショップ」）へ組合員が参加する機会を多く作りました。また、昨年度に続き、本取り組みの周知活動として「わくわく体験まちづくり」イベントへこれまで参加してこなかった地域団体にも呼びかけて開催することができました。

他団体と協働することで発見したこと

地域コミュニティづくりに地域団体や地元企業へ呼びかける際、これまでの2年間の取り組み実績があったおかげで、地域団体や企業が具体的にどのように関わっていけばいいか伝えやすく、成果として「わくわく体験まちづくり」イベントに新たに参加してくれる団体が増えました。また、本取り組みを組合員が参加したことで、できる時にできることをすることが地域コミュニティづくりにつながることに気づいてもらうことができました。

活動において生協が担った具体的な役割

昨年度に続き、連携団体の取り組みへのフォロー、連携団体との定例会議における事務局、広報物の作成等本取り組みの全般にわたる関わることが主な役割でした。加えて、2023年度はこれまで十分に活用できていなかった地域活動施設「パルひろば☆ちば」での取り組みにおいて連携団体から紹介された講師による食育講座を開催できました。事務局として助成金終了後も連携団体とのつながりを活かした取り組みの方向性を定めました。

成果として評価できる点

コミュニティガーデンづくりは助成金を活用して必要な備品や公園に来た方が交流できる土台を作ることできました。健康づくりについては、「わくわく体験まちづくり」イベントでの脳トレじゃんけんの定着や、隣接するスポーツジムによる健康づくり体操の実施の見通しがたちました。淑徳大学の学生は今後もSDGsや消費者問題の学習会や、ゼミ生同士の交流の場として、「パルひろば☆ちば」を活用していく予定です。「わくわく体験まちづくり」イベントにはこれまで関わりが少なかった地域団体や地元企業の参加、当該エリアを担当する当組合配送センター職員や組合員活動のスタッフによる取り組み（商品試食会、工作教室）を実施できました。

将来イメージ

この3年間で深まった連携団体とのつながりをこれからも大切にし、お互いが必要な時には協力し合っていきます。地域コミュニティづくりは、これまでのSDGsの観点だけでなく、関わりたい人たちを広く受け入れ地域での活動をより活発にしていきます。その場として、この間開催してきた「わくわく体験まちづくり」イベントを連携団体を中心に、さらに地域団体や個人を巻き込んだうえで実行委員会形式で年2回程度実施していきます。また、課題として残った地域住民の関わりや行政との連携については、地元商店街や地域のコミュニティセンター等を連携団体と訪問して、地域の課題を把握したうえで一緒にできることはないか模索、検討していきます。

WEBアプリを活用した地域資源の見える化と活動団体支援強化による重層的支援体制の確立

生活協同組合コープこうべ 第2地区本部　／　特定非営利活動法人あしやNPOセンター　／　芦屋市　／　芦屋市社会福祉協議会

活動のきっかけ

1年目「ためまっぷ芦屋」の周知、2年目団体の利用度向上への取り組み、活動途上にある団体の広報ページ（ミニホームページ）の構築を実施した。芦屋市の市民活動は活発であるが、担い手は5人から10人で構成されたグループが多く、自ホームページを持つこともままならない状態である。「ためまっぷ芦屋」のミニホームページを利用することで、広報力を高め、地域の活動は地域の方に届く仕組みを希望する団体が多くいることに起因する。

活動内容概要

この2年間で情報のプラットフォーム「ためまっぷ芦屋」を既に利用する111団体や個別にホームページを持てない小さい市民活動団体に対し、ミニホームページの案内をし、実際に利用できるまで個別サポートをした。行政を含めた団体に対してミニホームページの利用方法や、既に利用している団体の活用方法などの説明会を実施した。

他団体と協働することで発見したこと

昨年度末作成した、子育てママ向けのカードや学生向けのボランティア情報がわかるカードを、市役所などの協働団体で広く配架していただくことで、つながりにくい市民の方々に広く情報がいきわたった。また、「ためまっぷ芦屋」の利用頻度を高くする為の忌憚ない意見交換の場を持つことで、多世代で使える情報ツールにバージョンアップしている。

成果として評価できる点

地域性が高いイベントや、SNSの利用が困難な団体へは、情報の代理投稿、投稿方法やミニホームページの利用方法の個別レクチャーを実施し、誰でもができる情報のアウトプットの場を提供した。利用者は2023年4月から12月で、ユーザー数2,631人、総PV数28,499件だった。プログラムの製作者、運営者、利用者がよい循環でプログラムの改善に関わりながら広げてきた結果が数字に表れてきていると思われる。

活動において生協が担った具体的な役割

組合員サークルに直接ご案内し、説明会などをおこなった。その中で、例えば聴覚障がい者の方の団体からは「防災マップを作るだけで終わらず、改定することで備えになる」といった主旨の組合員・生活者視点の意見をいただいた。いただいた声を11月の各団体が参加する会議（意見交換会）で共有することで、作成だけでなく継続した取り組みが必要だと働きかけた。

将来イメージ

利用活動者が増え、活動者情報やイベント情報などがアップされることで、安心して参加できる人が増加され、共感を持ち活動者が増える。活動者が増えることで、活動場所が広がり、街の様子がわかるようになり、地域資源マップが活用され、「社会的処方」として活かされていく。
すなわち、「ためまっぷ芦屋」が誰もが安心安全に市民活動に参加の機会を持つことができるツールとなり、行ける場所、活躍できる場所を得、さらに元気で魅力的なウェルビーイングなまちになる。

LFA Japanとコープこうべが織りなす 食物アレルギーに優しいまちづくり

一般社団法人LFA Japan ／ 生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

https://lfajp.com/withcommunity.html#Reports

活動のきっかけ

食物アレルギーに関する理解促進と啓発活動に向けて、専門的な知見や当事者ネットワークとの連携の必要性を感じていた。関西を中心に活動するLFA Japanとのここ数年の連携の中で、食物アレルギーが社会的に大きな課題であることをさらに認識するようになった。直近では、地域住民と共に防災活動を普及促進する共同講演会など数多くのイベントにて接点を持ったことから、食物アレルギー課題を解決すべく、協働を開始した。

活動内容概要

西宮に住む食物アレルギーを持つ当事者を対象とし、「食物アレルギーで困ることのない社会」の実現に向け、コープこうべをハブ拠点とし、LFA Japan、関連団体、そして食物アレルギー専門医院と連携し、活動を展開していく。初年度は啓発・交流活動を最重点課題と捉え、当事者を対象としたエピペン講習会、ポリ袋クッキングや食物アレルギー防災講習などの各種イベントの展開などを実施した。

他団体と協働することで発見したこと

当事者以外の方に興味・関心を持ってもらうきっかけとして、食物アレルギーと他のテーマを組み合わせることが有効であることに気づきを得た。特に2月に実施した「食物アレルギー×防災」を掛け合せることで、100名以上の参加へと繋がった。その際、ブースには当事者以外の方が多く訪れ、「被災地での対応」について関心を示していた。次年度も「参加してみる」との回答もあったことから、組み合わせの検討を深掘りしたい。

活動において生協が担った具体的な役割

食物アレルギーの課題への関心を高める一環として、協働で活動拠点をコープ西宮南つどいの場と定め、学習・啓発活動に取り組んだ。具体的には、地域の患者会や医院などと連携しながら、当事者やその家族にとっては必要不可欠な食品表示に関する勉強会やアレルギー専門医による最新情報の提示、そして食物アレルギーフレンドリーな売り場形成の検証など、数々の試行錯誤を経て、組合員に問いかける基盤を形成した。

成果として評価できる点

コープ西宮南店では、西宮の患者会（みやれっこほーむ）にも参画要請し、アレルギーフレンドリーをテーマにしたエンド特集（売り場づくり）を実践できた。エンド以外でもPOPを活用した商品紹介やポスターでのLFA Japanや地域の患者会との協働の様子に関する説明などを来店された地域組合員へ紹介できたことを含め、協奏に向けた基礎づくりは評価できる点である。また、取り扱いのない商品を近隣店舗とともに共同で品揃えすることで在庫調整を図るなど1店舗では実施が困難なことをクリアでき、これらすべてが共鳴したため、イベント当日だけでなく、食物アレルギーに対する認知・啓発環境は少しずつではあるが確実に整ってきている。

将来イメージ

社会的課題の1つである食物アレルギーに関して、①啓発活動 ②交流活動 ③研究活動 ④提案・報告活動 ⑤実践・検証活動の5つのステージを意識し、LFA Japanとコープこうべが協働して計画的に取り組む。具体的には、学習会や当事者交流会、理解の促進や生活者の導線を意識した研究などを実施する。また、これらを実践し、初期段階の2～3年の活動期間では、西宮で食物アレルギーを持つ当事者とその他の地域住民が互いに支え合うコミュニティを形成することを目指す。その結果として、「食物アレルギーを中心とした共創コミュニティ」が創造され、「誰ひとり取り残さない未来の食環境」が地域的な協奏として形成されてゆく。

天ヶ瀬温泉街コミュニティガーデン交流促進事業

一般社団法人あまみら　／　生活協同組合コープおおいた

https://www.facebook.com/amamira0707

活動のきっかけ

令和2年7月豪雨から3年経ち、災害と新型コロナウィルス蔓延の影響で、地元住民の交流の場が希薄だったが、コミュニティガーデンを設置することで、新たな交流の場となり、花のお世話を通して日常的な交流が生まれた状態になると考えた。
日常的な住民同士の交流はそれぞれの生活状況の変化等を知るきっかけなり見守りに繋がり、独居老人も安心して住み続けれられる地域づくりを目指す。

活動内容概要

コミュニティガーデン事業「地元住民自らの手で作り、育て、花開く生きがい作りの場」
温泉街の空き地を活用してコミュニティガーデンを設置し、地域住民自らが花の管理をおこなう。花のお世話は生きがいとなり、また育てる過程で、地域住民同士のふれあいや交流が日常的に生まれる場所となる。交流会を開催し、花壇づくりから定植、植え替えをおこない、12月には、餅つきと花壇の写真展を実施し、住民同士で労いと交流の場を作る。

他団体と協働することで発見したこと

コープおおいたさんと協働し、共同購入の宅配時に広報協力をおこなってもらった。
当団体の活動では、訪問はできておらず、外にあまり出ない地元住民や周辺地域の方にコミュニティガーデンのことを周知することができ、さらに、イベント開催時には、花植え後のお茶会用のお菓子を提供してもらい、イベントのスタッフとしても活動してもらった。コープの赤いジャンバーを見慣れていることもあり、住民さんも安心感があったように感じる。

活動において生協が担った具体的な役割

第三者として関わることで地元住民の不安などを吐き出すきっかけに。
交流会の際に、参加者の方々にお茶出しやお菓子を渡しながら復興や日常生活の困りごとのお話などを聞いてくれたり、スタッフの手が足りない部分のサポートなどを担ってくれた。地元住民は、河川工事に伴う景観の変化や立ち退きのお話など、地元住民同士だと聞きづらい・話しづらい不安なども打ち明けることができ、スッキリした様子だった。

成果として評価できる点

「花のお世話による生きがいとふれあいの場の創出」
コミュニティガーデンが設置できたことで、地元住民が水やりなどに足を運び、花の成長を喜んだり、花の生育方法について立ち話に花が咲いたりと、花のお世話をすることによる生きがいと住民同士のふれあいや交流の場を作る、という目的を達することができた。
「地元と周辺地域の交流のきっかけの創出」
ワークショップや花植えイベントにより、新たな楽しみと、住民同士の花を通した交流のきっかけになり、自分の家の前でも始めよう、といった声が生まれていた。もちつきには、地元住民はもちろん、マルシェが同時開催されたことで、周辺地域の方々も参加し地元住民と交流できる機会となった。

将来イメージ

今回の花植えイベントの開催で、花を通した地域コミュニティの形成に効果があることが確認できたため、来年度以降も婦人会や旅館組合などの地元団体とも連携し、予算も含め協力して実施していく。そして今回のコミュニティガーデンの設置場所を増やしたり、芝生エリアなどを設けることで、外に出たくなるようなスポットを増やし、住民同士のふれあいや交流の場を増やしていきたい。
餅つきも、被災後からの恒例行事となっており、地元住民はもちろん地元の福祉施設などからも開催の要望があるため、地元団体と連携をはかり、周辺地域のお米農家の協力も仰ぎながら、天ヶ瀬温泉街の恒例行事として、今後も継続していく。

住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA

特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構　／　生活協同組合おおさかパルコープ

https://peraichi.com/landing_pages/view/coronasoudan/　　https://www.facebook.com/corona.soudan.osaka

活動のきっかけ

2020年、新型コロナウイルスにより失業し住まいを失う人が多数生まれてしまい、その惨状を改善すべく公民連携のプロジェクトチームを結成。それぞれの団体の強みを活かした支援の連携、相談会の開催、食料配布の実施などを実施。その後コロナ禍による失業が落ち着いたが、立ち上げたプロジェクトチームは困窮する方達に対して今後も大きな資源として存在できると確信し、今後も継続的な活動をおこなうことを決定。

活動内容概要

食料配布＆相談会：西成区内で大規模な食料配布＆相談会を実施。500人以上の方が来場することもあり。食料を配布するだけではなく、さまざまな専門機関・NPO団体で就労・福祉・生活・法律などの相談も実施。
女性・子育て世帯を対象としたカフェ形式の相談会実施：西成区役所庁舎を利用し、女性子育て世帯の方に向けた相談会を実施。食料や日用品の配布をおこないながら、子育て等の相談も受け付ける。

他団体と協働することで発見したこと

「行政との協働方法」
今回の新たに女性・子育て世代の支援を実施するにあたり、行政が積極的に協力してくれることとなり、新たな協働方法を模索することができた。
「資源の共有化」
各団体それぞれが寄付物品の受け入れをしている中で、場合によっては供給過多の状態になることも少なくない。本事業を通じて、各団体の横のつながりが強くなったことで物資等の資源の共有が円滑にできるようになった。

活動において生協が担った具体的な役割

「イベント実施のボランティアスタッフ」
年末年始の活動や女性・子育て世帯向け相談会において、おおさかパルコープ様のスタッフを派遣していただき当日の運営を支えてくれました。
「物資の提供」
日用品や食料品などの物資を提供していただき、物価高等で生活が苦しい方への支援を実施することができました。女性・子育て世帯向けイベント（ポンポコカフェ）の来場者アンケートでも「助かった」という声を多数いただきました。

成果として評価できる点

「西成区で新たに生まれた支援の形」
西成区は生活保護率が日本一高く、困窮状態の方が多いことで知られている地域であるが、本助成事業を通じて、「ポンポコカフェ」という女性・子育て世代のカフェ形式での相談・食料配布イベントが生まれた。この取り組みは、民間支援団体・社会福祉協議会・行政が協力し実施することができたが、協力団体それぞれが実施して良かったと必要性を感じることができたともに、参加者の満足度も非常に高い結果となった。
「ホームレス状態となった方への速やかな支援の実施」
相談会を通じて住まいを失った方に対して、次のステップ（就労や生活保護申請等）に移るまでの期間の宿泊場所や食料を提供することができた。

将来イメージ

事業を実施する中で、今後も活動を継続していく必要性を強く感じるとともにさらなる活動規模の拡大をする必要があると判断し、今後本事業を当団体から独立させ法人化することを現在計画中。
法人化をすることにより、より公益性のある活動につなげられることが期待できるとともに、資金集めも加盟団体で協力し積極的に実施し、継続的な運営を目指す。
今後も同様の取り組みを実施するとともに、大災害などが起きた際の中心拠点となれるような地域資源の連携体制を構築していきたい。

協働はじめる助成・協働ひろめる助成
2023年度助成のまとめ

地域ささえあい助成は2022年度に制度を改定し、「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」という2つの協働区分での助成を開始しました。このページでは、2023年度の応募と助成の状況について概要をご報告します。

1. 応募と助成の件数

2023年度は42件から応募いただき、35件に対して総額23,948,178円を助成しました。助成件数の内訳は、協働はじめる助成が8件、協働ひろめる助成が27件でした（表1）。2023年度に新規で助成した活動は35件中17件でした（表2）。

表1　応募と助成の件数と総額（金額単位：千円）

年度	2022年度			2023年度			2024年度			
協働区分	はじめる	ひろめる	合計	はじめる	ひろめる	合計	はじめる	ひろめる	たかめる	合計
応募件数	14件	26件	40件	9件	33件	42件	13件	26件	2件	41件
助成件数	12件	19件	31件	8件	27件	35件	9件	21件	2件	32件
応募総額	6,184	20,931	27,115	3,938	27,559	31,497	4,257	23,236	10,000	37,493
助成総額	5,366	13,747	19,113	3,364	20,583	23,948	3,530	16,321	10,000	29,851

※助成総額は変更になる場合があります。

表2　各活動の助成決定時の助成回数

年度	2022年度	2023年度	2024年度
新規	16件	17件	16件
2回目	8件	10件	7件
3回目	7件	8件	7件
合計	31件	35件	30件

※2024年度から助成を開始する「協働たかめる助成」は件数に含めておりません。

2. 応募団体の地域分布

応募団体（第一団体）の所在地の分布は表3のとおりです。19都道府県から応募いただきました。

表3　応募団体の地域分布

地域	応募件数	内訳
北海道・東北	5件	北海道3件、秋田1件、岩手1件
関東・甲信越	11件	群馬5件、東京3件、神奈川2件、千葉1件
東海・北陸	5件	福井2件、富山1件、岐阜1件、愛知1件
近畿	15件	兵庫9件、大阪4件、奈良2件
中国・四国	3件	鳥取1件、島根1件、広島1件
九州・沖縄	3件	福岡2件、大分1件
合計	42件	19都道府県

3. 助成した活動のカテゴリー別の件数

助成先団体の取り組む活動のカテゴリー別の件数は表4のとおりです（各活動を地域ささえあい助成事務局にてカテゴリーに分類しました）。

表4　助成した活動のカテゴリー別の件数

カテゴリー	件数
A. 居場所づくり	7件
B. 貧困対策・困窮者支援	3件
C. フードバンク・フードパントリー	7件
D. 子育て支援	4件
E. 健康づくり・傷病者支援	0件
F. おたがいさま・助け合い	0件
G. 災害支援・防災	2件
H. 買い物支援	3件
I. DV対策	2件
J. その他	7件
合計	35件

明日のくらし、ささえあう
CO·OP共済

2024年度の募集内容です。2024年度の募集は終了いたしました。
2025年度の募集については夏頃にホームページにてご案内予定です。

地域ささえあい助成

―生協と生協以外の団体の協働を応援します―

2023年度募集のお知らせ

本助成制度では、人と人、組織と組織のつながりの中で、時にはささえ、時にはささえられながら誰もが安心してくらせる地域社会に向けて、生協と生協以外の団体が協働で取り組む活動を支援します。

地域において、社会課題や地域課題の解決のために地域の多様な団体と生協とのつながりを創り、広げ、協働の力でさまざまなテーマに取り組もうとされている皆様からのご応募をお待ちしています。

●応募受付期間

2022年 10月15日(土)～11月15日(火)

●助成対象期間

2023年 4月1日(土)～2024年 3月31日(日)

●助成対象となる活動

地域共生社会の実現に向け、生協と生協以外の多様な団体が協働して取り組む、以下のいずれかの実践的な活動に対して助成します。

①社会課題や地域課題の解決に向けた、地域における活動
②くらしに身近な課題やまだ広く知られていない課題の解決に向けた、地域における活動
③人と人や組織と組織をつなげ、取り組みを発展させていくための活動

本助成制度がめざす地域共生社会

本助成制度がめざす地域共生社会は、一人ひとりが感じたり、抱えたりする身近な課題や問題を、周りの人と共有し、認めあい、共感しあいながら、人と人とのつながりのなかで、解決に向けて一緒に考え行動することを大切にします。一人ひとりが誰かをささえ、時にはささえられながら、取り組みの輪が地域に広がっていくような社会をめざしたいと考えます。

「生協」とは

消費生活協同組合法にもとづく法人をいいます。

「協働」とは

受託・委託の関係ではなく、活動の目的を共有したうえで、それぞれの強みや資源を生かして役割を発揮し、対等の関係でお互いに協力しあい、それぞれが活動の経過と結果に責任を持つことをいいます。

「生協以外の団体」とは

生協以外の非営利法人（協同組合、社団法人、財団法人、NPO法人、中間法人、社会福祉法人、学校法人等）、市民団体、任意団体、企業等をいいます。法人格の有無は問いません。
※以下、生協以外の団体を「団体」と表記します。

協働区分:「協働はじめる助成」と「協働ひろめる助成」

協働の状況に応じて、いずれかの協働区分にてご応募ください。
応募にあたっては、活動を協働でおこなうことについての合意や、課題の共有等の協議がなされていることが必要です。

協働区分	協働はじめる助成	協働ひろめる助成
協働の状況	生協と団体が初めて協働して活動をこれから始める場合、もしくは協働した活動の開始から1年未満の場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があり、その協働をさらに広げて活動する場合
助成金額上限	1つの活動について50万円	1つの活動について100万円
応募の制限	一連の活動に対して1回（1年間）	一連の活動に対して最大3年間（「協働はじめる助成」の助成期間を含めます）
応募の窓口	生協または団体のいずれからでも応募可	生協からの応募を推奨（生協のより主体的な関わりを期待しています）

※助成金総額は「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」あわせて最大2,500万円程度です。

助成対象となる費用

助成を受ける活動に直接かかる費用

※人件費は、「協働ひろめる助成」の場合のみ、助成金額の30%を上限として対象となります。
※具体的な費用項目等は応募要項別紙「経費ガイドライン」をご参照ください。

選考方法

外部有識者およびコープ共済連、日本生協連関係者で構成する審査委員会にて審議のうえ、決定します。

※選考過程や個別の審査結果に関するお問い合わせには応じかねますので、ご了承ください。

応募スケジュール

応募受付期間	2022年10月15日～11月15日
助成決定	2023年3月中旬
選考結果通知	2023年3月下旬（メール通知）
助成金のお支払い	2023年4月～

応募方法

応募要項・応募用紙等は「CO·OP共済オフィシャルホームページ」からダウンロードしてください。
応募要項等をよくお読みいただき、必要書類を事務局宛にメールでご送付ください。

URL https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/

<参考:これまでに助成した活動の例>

地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者の生活支援、フードバンク・フードパントリー活動、生活困窮者等への食料支援や相談・カウンセリング、病気治療中の方やその家族に対する精神面でのサポートや社会に対する啓蒙活動、子育てひろばや地域サロンの開設・運営、DV被害者の生活支援　等

制度全般に関するお問い合わせ先・応募書類送付先

日本コープ共済生活協同組合連合会（コープ共済連）
組合員参加推進部　地域ささえあい助成事務局
TEL **03-6836-1324**（平日10:00～16:00）
メール **contribution@coopkyosai.coop**

協働に関するお問い合わせ・ご相談先

日本生活協同組合連合会（日本生協連）
社会・地域活動推進部　地域コミュニティグループ
TEL **03-5778-8135**（平日10:00～16:00）
メール **chiiki-comm@jccu.coop**

過去に助成した活動はホームページでご案内しています。　コープ　ささえあい　報告集　検索
URL https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/report.html

地域ささえあい助成　2023年度フレンドリーサポートについて

CO･OP共済　地域ささえあい助成では、「フレンドリーサポート」という名称で、助成金活用団体に対してアンケートや双方向的な意見交換を通じて活動の状況や助成金の活用状況を伺う取り組みを実施しています。

フレンドリーサポートとは？

助成金活用団体に対してアンケートや双方向的なヒアリングを通じて活動の状況や助成金の活用状況を伺う取り組みを実施しております。助成する・されるという関係にもとづく一方的なヒアリングではなく、おたがいに学びあえる機会として実施しており、事務局も助成金活用団体の皆様から学ばせていただきながら、皆様とともにより良い制度を作っていきたいと考えています。

フレンドリーサポートの実施概要

2023年度の助成先全35団体を対象にアンケートを実施しました。その結果をふまえながら、はじめてお話をうかがう団体を中心とした23団体を対象に、オンラインでヒアリングを実施しました。

フレンドリーサポートにおいて意見交換をしたテーマ

次の3つのテーマについて、当該団体の活動や本助成についての事務局との双方向的な意見交換をおこないました。

1. **活動の状況および助成金の活用状況**
2. **協働・連携の状況**
3. **当該年度または次年度以降の展望**

フレンドリーサポートを実施した結果の特徴的な状況

各活動において様々な課題に対して悩みながらも生協と地域が協働することで、その活動を一歩づつ前進させる様子を伺うことができました。当会の助成金を有効に活用いただきながらも、将来的に助成に頼らずに活動を継続していくための工夫や、将来的にどういう活動を目指していくか？といった将来展望を伺い、各活動の発展・前進に当助成が大きく寄与できていることも知ることができる機会となりました。

とりわけ、「協働はじめる助成」で助成をしている団体においては、これまで応募用紙でしか分からなかった活動内容が、ヒアリングを通じて、リアルに知ることができ、より地域にとって必要な活動である様子を伺い知ることができました。

また、2023年度においては、フレンドリーサポートの状況をまとめ、審査委員にも共有をおこなったことで、2024年度助成を審査する審査委員会においても、より活動内容の理解を深めたうえで、審査をすることができました。

フレンドリーサポートを実施した団体の事例

(1) 活動名：福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、こども食堂を応援するプロジェクトVer2

協働団体	エフコープ生活協同組合、東峰村えんプロジェクトの会
① 活動の状況および助成金の活用状況	5月に苗植えのイベントを実施しました。しかし、7月の水害により、ほとんどのカボチャがダメになってしまい、8月の子ども向けの見学イベントや9月の収穫イベントが実施できませんでした。また、商品として宅配の組合員向けへの供給も予定していましたが、これも不可能になってしまいました。収穫は1300玉予定のところが100玉程度。10月27日（金）に調理実習のイベントの開催、ならびに子ども食堂への寄付は、わずかばかりになる見込みですが実施する予定です。
② 協働・連携の状況	東峰村えんプロジェクトの会との協働は6年前の水害の際よりはじまり6年目。かぼちゃを植える取り組みは2021年度から実施しています。高齢の方が多い村ということもあり、村役場の方や村長なども支援してくれています。8月の子ども向けのイベントや9月の収穫イベントが水害の影響でできなかったこともあり、今年は協働しきれなかった団体もありました。10月の調理実習のイベントや子ども食堂への寄付などでの協働は継続しています。 また、福島の方との協働は、東日本大震災以来、農作物に関する風評被害もあり、それを支援していくという中で育まれ、このカボチャを植える取り組み以外でも、さまざまな部分で活動を共にしています。
③ 当該年度または次年度以降の展望	来年度も「協働ひろめる助成」へ応募予定です。今年、水害でできなかったイベントや、商品化して組合員の元にも味を届けたいと考えています。今年、水害は出ていますが、種は毎年、いいだて村から買っていますので、問題ありません。

(2) 活動名：LFA Japanとコープこうべが織りなす食物アレルギーに優しいまちづくり

協働団体	一般社団法人LFA Japan、生活協同組合コープこうべ第2地区本部
① 活動の状況および助成金の活用状況	生協で窓口を担っていた担当者の人事異動、ならびに店舗の店長が異動となり、関係構築について改めてすすめているところで、応募時点で予定していたイベントをすべて実施できている状況ではありません。そういった中でも、改めて関係を築きながら、意見交換を中心に実施しました。また、第2四半期以降では、ポリ袋クッキング等の調理イベントやスキンケア・乳児湿疹などの悩みの講習会を実施しました。店舗には、アレルギー専用の商品コーナーを設置いただいており、その部分も意見交換しながら、より良いコーナー作りをしてもらっています。ほかの店舗の店長なども、言葉だけではイメージできない部分を見学していただき、興味深く見てもらい、各店舗での実施の可否などを持ち帰ってもらっています。
② 協働・連携の状況	人事異動もあり、改めての関係構築になりましたが、取り組みの意義なども確認いただき、一歩ずつ前進をしています。また、前任者にも引き続き、ご協力いただきながら、協働関係を継続しています。 コープこうべ側としては、バイヤーなどの売り上げ目標などから、組織的な取り組みにはなっていませんが、店長やエリアマネージャーの権限の範囲内で可能な取り組みをすすめ、良い事例を発信・横展開していくことで、取り組みをボトムアップ型で広げていきたいと考えています。
③ 当該年度または次年度以降の展望	今の店舗を試行錯誤しながらモデルとして、こういった店舗を増やしていきたいです。コープこうべ以外の店舗からも見学いただき、他の生協でも同じように増やしていきたいです。アレルギーを持つ小学生が自分で何かを買うときに、何を見て買い物をすれば良いのか、学習するようなことにも取り組みたいと考えています。

地域ささえあい助成　2023年度現地視察について

CO・OP共済 地域ささえあい助成では、活動内容を深く知ることや事務局の学びの機会として、現地視察を実施しております。2020年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、現地視察については控えておりましたが、2023年度より再開いたしました。フレンドリーサポートでお話しを伺うだけでは分かりづらい点も、改めて現地で実際に見ることで発見できるものがありました。

(1) 活動名：つながりインターンシップ@協同～若者が協同の働き方を学び、どう生きるかを考える～　10月21日

協働団体	一般社団法人くらしサポート・ウィズ、パルシステム生活協同組合連合会
内容	**「2023年度つながりインターシップ　終了報告会」** **【当日のプログラム】** 14：00～14：05　開会挨拶（パルシステム共済連　中根） 14：05～14：10　今年度の振り返り（くらしサポートウィズ事務局） 14：10～16：40　終了報告（学生）&アンサートーク（受け入れ事業所） 16：40～17：00　記念品贈呈他 17：00～18：00　交流会 **【活動概要】** 協同組合・社会的企業の理念や仕組み、そして協同をベースとした経済の存在を大学生に学んでもらうことを主目的としている。 **【活動の詳細】** 生活クラブグループ・パルシステムグループ・ワーカーズグループ・農協グループ・金融（城南信金・労金）グループ・NPOグループに分かれ、それぞれの職場において、活動概要に則した学びを目的に終了および学習をおこなった。 これにより学生には 1. 職員らに話を聞き入れられる体験を経て自己肯定感を育む 2. 生協等の理念と仕組みを知り、生き方や働き方の選択肢が増える 以上の効果をもたらし、受け入れ先には 1. 多種多様な団体同士の交流の場になる 2. 大学生との対話や交流を通じて、職員も自らの組織の理念や社会的を顧みる 学生からはどのグループからも生協へのイメージの変わり方や、つながりについての意識の持ち方の変化等が語られました。 **【参加者】** 8大学より17名の学生が参加、受け入れ16団体

【つながりインターンシップ】

(2) 活動名：女性向けケア付きシェアハウス、託児、みんなの食堂による支えあいの地域拠点づくり　10月20日

協働団体	生活クラブ生活協同組合、認定NPO法人さくらんぼ、横浜みなみ生活クラブ生活協同組合
内容	**【当日のプログラム】** 14：30～16：00　活動内容のご説明、質疑応答 16：00～16：30　見学① 16：30～16：40　個別ヒアリング 16：40～17：00　見学② **【活動概要】** 生活クラブ旭センターで以前は職員寮で空きスペースとなっていた3階部分にて、女性向けのケアハウス（Nagomo）、多世代食堂・フードパントリー（Minnade）、保育スペース（Mitete）を実施。 ※それぞれのアルファベットの先頭を取って「みなみ」となるように名づけられている。 **【活動の詳細】** **～女性向けのケアハウス（Nagomo）～** 家族向けの部屋は空いているが、個人向けの部屋は全て埋まっている。お試し期間も設け、既に入居している人、入居したい方の双方がOKであれば正式に入居する形を取っている。ここの施設はこれから自立をしていくためのもの。そのため、たまに今現在、DV被害にあってシェルターへの避難が必要な方からの相談もあるが、そういう方は対象としていない。主に、さくらんぼの方々が日常の運営をすすめている。 **～多世代食堂・フードパントリー（Minnnade）～** 第3金曜日に実施。20人～50人の参加。台風並みの嵐の日と重なってしまったが、参加人数は徐々に増えている。14時半～がフードパントリーで16：30～が多世代食堂。 **～保育スペース（Mitete）～** 現在は月1回で実施。今後、体制面が確保されてくれば週1回の実施に増やしていきたい。

【ホームタウンみなみ】

2023年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会」開催報告

地域ささえあい助成では、助成金活用団体・生協の皆様の学びあいと交流の場として毎年、「団体交流会」を開催しております。2023年度は「withコロナ時代の地域課題の変化と協働を考える」をテーマに、この間、どのように地域課題が変化しているか、またどのように協働していくか、改めて交流をしながら各自が考える機会として、開催しました。

開催日時

2023年10月26日（木）13:30～16:30　　オンライン開催
（当日参加できなかった方に向けて、後日、見逃し配信をおこないました。）

参加状況

助成金活用生協・団体…18生協26団体　50名　合計83名（※）
（※内訳：事務局14名、審査委員7名、講師1名、オブザーバー11名）

開催内容

1 開会挨拶　コープ共済連　総合マネジメント本部本部長　渡邉　一巨

2 基調講演

i. 講師：松原　明　氏（協力アカデミー代表）
ii. 講演テーマ：「いまの時代に求められる協力のスキル・ポイント」

「いまの時代に求められる協力のスキル・ポイント」をテーマに、松原　明氏にご講演をいただきました。協力してほしい相手の「困りごと」「目的」を理解し、自身の活動がその解決に役立つように設計する「相利開発」のスキルについての講演は参加者から多くの反響があり、講演後の質疑応答等でも活発に意見交換が交わされました。

＜参加者の声（一部抜粋）＞
- 「ご協力お願いします」という言葉から、「協力」というと〈力を借りたい人が力を貸せる人にお願いし、力を貸せる人が力を借りる人に貸しを作るようなイメージ〉がありました。今回の基調講演を聴き、「協力」はよりWin-Winな関係のもとに成り立つことを知り、「協力」の捉え方が変わりました。各団体の活動の中でこれから相利開発の手法の活用がすすむと、力強い協働と継続的な地域支援が実現できるように思いました。
- 一つの活動を実行するためには、様々な団体と協力する必要があることや、ニーズの「広がり」だけでなく「深まり」にも対応しなくてはならない状況を知った。利用者の声には切実な思いが込められており、心に響く内容であった。地域ささえあい助成の必要性を実感する機会にもなった。

【松原　明　氏】

3 活動報告

NO	活動名称	協働団体
i.	「就学援助世帯」を対象とするフードバンク活動	生活協同組合しまね・ 特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便
ii.	ちいさなやさしさ市場	群馬中央医療生協・NPO法人はじめの一歩

＜参加者の声（一部抜粋）＞
- フードバンクの取り組みだけでなく、その先にあるお母さんと子どもたちの暮らしぶりへも目を向けて寄り添う支援は自分にはない発想でした。さまざまな団体が関われることで「みんなでするからまちづくり」の言葉が印象的でした。
- 焼きまんじゅうのお話はまさに松原先生のお話の具体例だと思った。高齢者・ひきこもり・障害者の方など、それぞれで見れば支援が必要な方たちだと思いがちだが、お互いが協力関係になれる理想の形だと感じた。

4 分散会交流＋全体交流

少人数のグループに分かれ、以下をテーマに分散会交流をおこないました。

i. 基調講演、活動報告を受けての感想交流
ii. 生協・団体が協働するにあたっての工夫や悩み、地域課題の変化など

＜参加者の声（一部抜粋）＞
- 先方の課題などをあまり聞けていないのではないかと思ったので、次はもう少しお互いが抱えている課題を共有したい。
- 団体内部での活動周知だけでなく、外部の団体とも、さらに協力し、つながることをもっと考えていきたいと思いました。

5 閉会挨拶　コープ共済連　組合員参加推進部 部長　田中 美樹

参加者の声

◎ 日本の各地で助成団体のみなさんが地域の課題に取り組んでいる様子をお話しされていて、様々な団体との協働のこと、コロナ後の変化や物価高騰の影響のことなど今の状況を聞くことができました。たくさんの学びと行政との関わり方のヒント（自分たちの目的、課題、活動をしっかり持って関わるなど）を得られました。

◎ 基調講演の内容が非常に勉強になりました。事前に松原氏の著書を購入し、途中まで読んでおりましたので、余計に学びが深まりました。

【団体交流会参加者のスクリーンショット】

地域ささえあい助成事務局からのお知らせ

「CO･OP共済 地域ささえあい助成」のホームページのご紹介

CO･OP共済オフィシャルホームページ内に地域ささえあい助成のページを開設しています。
このページでは、地域ささえあい助成の概要のご紹介のほか、過去の活動報告集やこれまでの助成実績を掲載しています。
また、2025年度助成の募集情報や応募書類も順次掲載していきます。

◉ https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/

「CO･OP共済 社会貢献の取り組み 登録制ページ」のご紹介

助成金活用団体のみ閲覧可能な登録制ページでも、随時、助成に関するご案内や各種セミナーのご紹介など、様々な情報を発信しています。

◉ https://kouken.coopkyosai.coop/

CO･OP共済のキャラクター「コーすけ」のブランドサイトのご紹介

CO･OP共済オフィシャルホームページ内の「コーすけとCO･OP共済」では、ペーパークラフトや壁紙、ぬりえなど、コーすけの楽しいツールをご用意しています。
ぜひ、ダウンロードして活用ください。

◉ PC版
https://cosuke.coopkyosai.coop/download/
◉ スマホ版
https://cosuke.coopkyosai.coop/sp/download/

「CO・OP共済 地域ささえあい助成」のロゴとバナーのご紹介

助成金活用団体の皆様には活動時に地域ささえあい助成のロゴやバナーを活用いただいています。各活動報告のページに掲載の写真にて活用のご様子をご覧いただけます。

「CO・OP共済 地域ささえあい助成」の2024年度スケジュールのご案内

2024年4～5月	2024年度助成金のご入金
2024年8月頃	2025年度「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」募集情報のご案内開始 2024年度助成フレンドリーサポートのアンケート送付
2024年9月頃～12月頃	2024年度助成フレンドリーサポート実施
2024年10月25日（金）	2024年度団体交流会
2024年10月15日（火）～11月15日（金）	2025年度助成の応募受付
2025年3月下旬	2025年度助成の審査結果通知
2025年3月末日	2024年度の活動報告・収支報告締切

「協働たかめる助成」のご紹介

地域ささえあい助成は、従来の「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」に加え、新たな協働区分として2024年度助成からは「協働たかめる助成」を開始しております。
この「協働たかめる助成」では、生協と地域の複数の団体が協働して地域の多様な課題に取り組む活動を、2～3年間にわたって年500万円を上限として助成していきます。
詳しくは次ページに2024年度助成の募集チラシを掲載しておりますので、ご確認ください。なお、8月頃に2025年度助成の募集情報をCO・OP共済オフィシャルホームページにてご案内を予定しております。

2024年度の募集内容です。2024年度の募集は終了いたしました。
2025年度の募集については夏頃にホームページにてご案内予定です。

地域ささえあい助成

―生協と生協以外の団体の協働を応援します―

「協働たかめる助成」2024年度募集のお知らせ

CO·OP共済は、2012年度から「地域ささえあい助成」を通じて、だれもが安心してくらせる地域社会の実現をめざし、生協と生協以外の団体が協働して地域の課題に取り組む活動を支援しています。本助成制度の2024年度助成分からは、従来の「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」に加え、「協働たかめる助成」の募集を開始します。

「協働はじめる助成」では、生協と地域の団体がはじめて協働する活動を助成しています。「協働ひろめる助成」では、生協と地域の団体が協働関係を広げたり深めたりしながら取り組む活動を助成しています。そして、「協働たかめる助成」では、広がった協働関係を持続的なものにしながら、地域の多様な課題に向きあい、人と人、組織と組織のつながりの力で解決していこうとする取り組みを支援していきます。

●応募受付期間

2023年10月15日(日)～11月15日(水)

※受付開始前にもお気軽にご相談ください。

●募集対象団体

生協が窓口となってご応募ください。

●助成期間

2024年4月1日～2年間または3年間

※応募時に2年間または3年間を選択し、該当期間分の計画をご提出ください。

●助成金額上限

年間500万円 × 最長3年間
＝ 最大1,500万円

※年度によっては、新規の募集をおこなわないか、新規の助成が1～2件となることがありえます。

●助成対象となる活動

地域共生社会の実現に向け、生協と生協以外の団体が協働して取り組む、以下のいずれかの内容の実践的な活動です。

①社会課題や地域課題の解決に向けた、地域における活動
②くらしに身近な課題やまだ広く知られていない課題の解決に向けた、地域における活動
③人と人や組織と組織をつなげ、取り組みを発展させていくための活動

●応募要件

以下のAとBのいずれも満たす活動が応募できます。詳しくは応募要項でご確認ください。

A 地域をささえつづけるために協議体をもつことで運営の安定をはかっていること
B 地域の多様な課題の解決に向けてさらなる取り組みを展開しようとしていること

※各要件に関する具体的な確認項目をすべて満たす場合に応募いただけます。

助成対象となる費用

助成を受ける活動に直接かかる費用（事業費）、または助成を受ける活動について協議する場（協議体）の運営にかかる費用（管理費）

選考方法

外部有識者およびコープ共済連、日本生協連関係者で構成する審査委員会にて審議のうえ、決定します。

応募スケジュール

応募受付期間	2023年10月15日～11月15日
助成決定	2024年3月中旬
審査結果通知	2024年3月下旬（メール通知）
助成金のお支払い	2024年4月～（初年度分）

応募方法

応募要項・応募用紙等は下記のホームページからダウンロードしてください（6月頃に掲載する予定です）。応募要項等をよくお読みいただき、必要書類を事務局宛にメールでご送付ください。

URL https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/

3つの協働区分のちがい（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」）

協働の状況等に応じて、いずれの協働区分に応募するかご検討ください。

協働区分	協働はじめる助成	協働ひろめる助成	協働たかめる助成
協働の状況	生協と団体が初めて協働して活動をこれから始める場合、もしくは協働した活動の開始から1年未満の場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があり、その協働をさらに広げて活動する場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があること、助成開始時点で協議体が立ち上げられていること、協議体を構成する団体が3団体以上であること
窓口団体	生協または生協以外の団体	生協を推奨	生協のみ（生協以外の団体からは応募不可）
助成期間	1年間	1年間	2年間または3年間（応募時に選択）
助成継続期間	一連の活動に対して1回（1年間）	一連の活動に対して最大3年間（「協働はじめる助成」の助成期間を含めます）	3年間まで（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」の助成期間は含めません）
助成金額上限	1つの活動について50万円	1つの活動について100万円	1つの活動について、年間500万円×最長3年間＝最大1,500万円
助成金総額上限	「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」合計で年間2,500万円程度		年間2,000万円程度

制度全般に関するお問い合わせ先・応募書類送付先

日本コープ共済生活協同組合連合会（コープ共済連）
組合員参加推進部　地域ささえあい助成事務局
TEL **03-6836-1324**（平日10:00～16:00）
メール **contribution@coopkyosai.coop**

協働に関するお問い合わせ・ご相談先

日本生活協同組合連合会（日本生協連）
社会・地域活動推進部　地域コミュニティグループ
TEL **03-5778-8135**（平日10:00～16:00）
メール **chiiki-comm@jccu.coop**

CO・OP共済　地域ささえあい助成の詳細はホームページでご案内しています。 コープ　ささえあい 検索
URL https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/
※「協働たかめる助成」の詳細（応募要項・応募用紙等を含む）は6月頃に掲載する予定です。

CO･OP共済40周年記念

CO･OP共済は「組合員どうし困った時に助け合いたい」という「想い」から生まれた商品です。
2024年度はCO･OP共済40周年、
ライフプランニング活動30周年となります。
記念すべき年を迎えるにあたり、これまでのCO･OP共済とコープ共済連がおこなってきた主な社会貢献活動のあゆみをご紹介いたします。

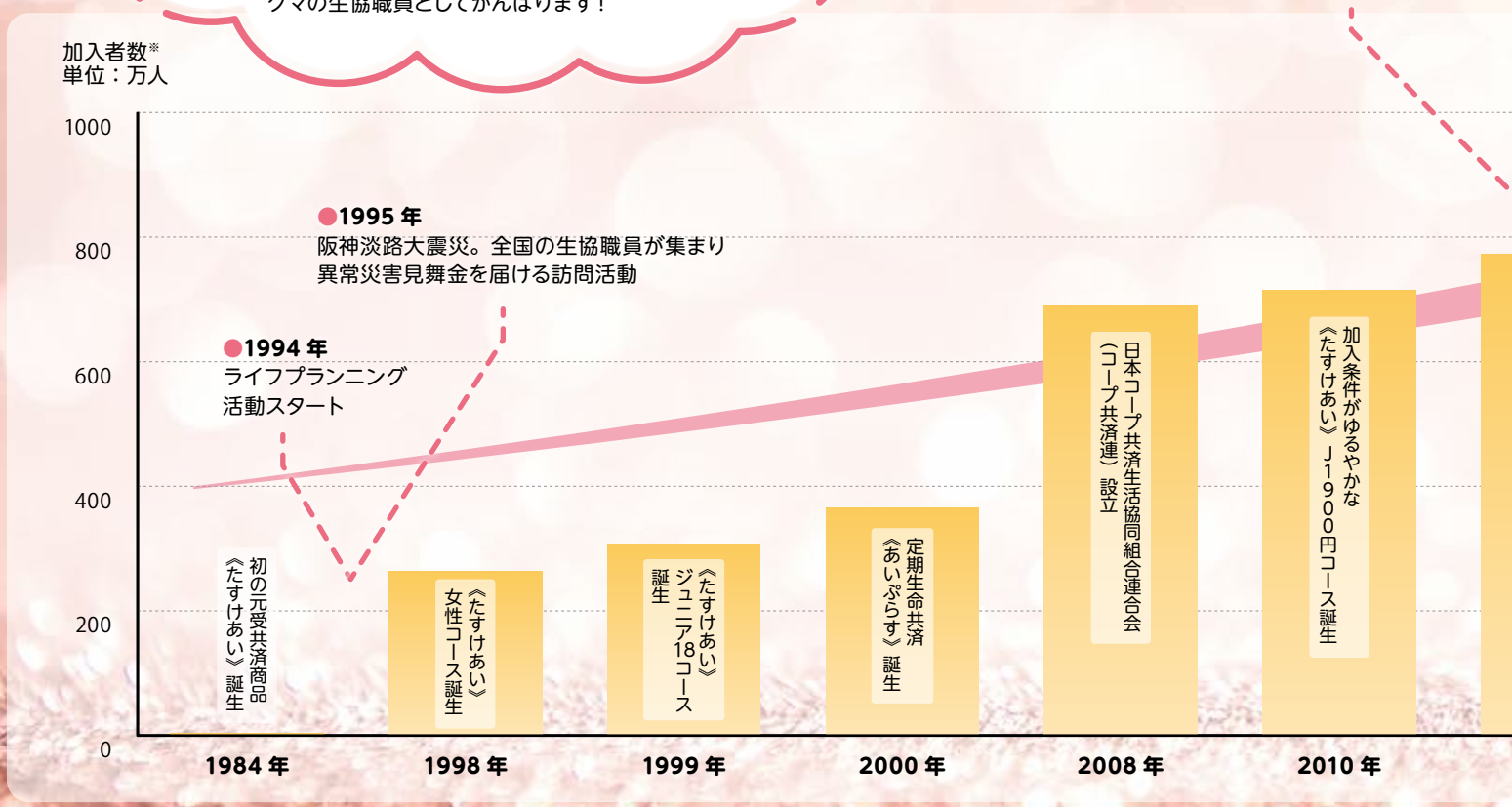
CO･OP共済40周年記念サイトにてスペシャルムービーや40周年に関連した各種イベント情報をご紹介しています。

2012年 コーすけ誕生

コーすけとは：「明日のくらし、ささえあう」というブランドスローガンを、組合員や一般の方に広くお伝えするために「コーすけ」が誕生しました。
コープ共済の「コー」と、たすけあいの「すけ」で「コーすけ」。
みんなに「ありがとう」って言ってもらえるように、クマの生協職員としてがんばります！

この間のその他の取り組み

- 障がい者スキーの支援
- 全国高校サッカー選手権大会への協賛
- 医療従事者支援
- たすけあい奨学制度への寄付（一般財団法人全国大学生協連奨学財団）
- 子どもの未来アクション（「子どもの貧困」支援活動への応援助成／日本生活協同組合連合会）への寄付



※加入者数は元受共済と受託共済の合計

「ライフプランニング活動」とは

ライフプランやくらしにかかわるお金について、組合員同士の学びの場を提供することによって、組合員のくらしの向上に貢献する活動です。中心的なテーマである「保障の見直し」に関する学習会では、組合員が本当に必要な保障を自ら選択する力をつける手助けなどをします。

「地域ささえあい助成」とは

生協の保障事業であるCO･OP共済の元受団体がおこなう助成制度です。人と人、組織と組織のつながりの中で、時にはささえ、時にはささえられながら誰もが安心してくらせる地域社会に向けて、生協と生協以外の団体が協働で取り組む活動を支援します。

「長期加入者への感謝の取り組み支援企画」とは

各会員生協で実施されている「長期加入者への感謝の取り組み」を支援しています。CO･OP共済に長期間ご加入いただいている方へ感謝をお伝えすることを通して組合員同士や組合員と生協職員とのコミュニケーションを促進しながら、共済加入の意義を感じていただき相互扶助と協同の精神を育みます。

「健康づくり支援企画」とは

CO･OP共済や生協を長いあいだ支えてくださった共済加入者・生協組合員にこれからも元気にくらしていただくために、また、高齢化のすすむなか元気な高齢者の活躍できる地域社会をつくっていくために、会員生協による健康づくりの取り組みを広めていきます。

●2012 年
地域ささえあい助成スタート

●2013 年～
公益財団法人 日本生産性本部
サービス産業生産性協議会が調査を行う
JCSI（日本版顧客満足度指数）の調査において、
生命保険部門第1位を獲得
2023 年度には通算 8 回目の
第1位を獲得

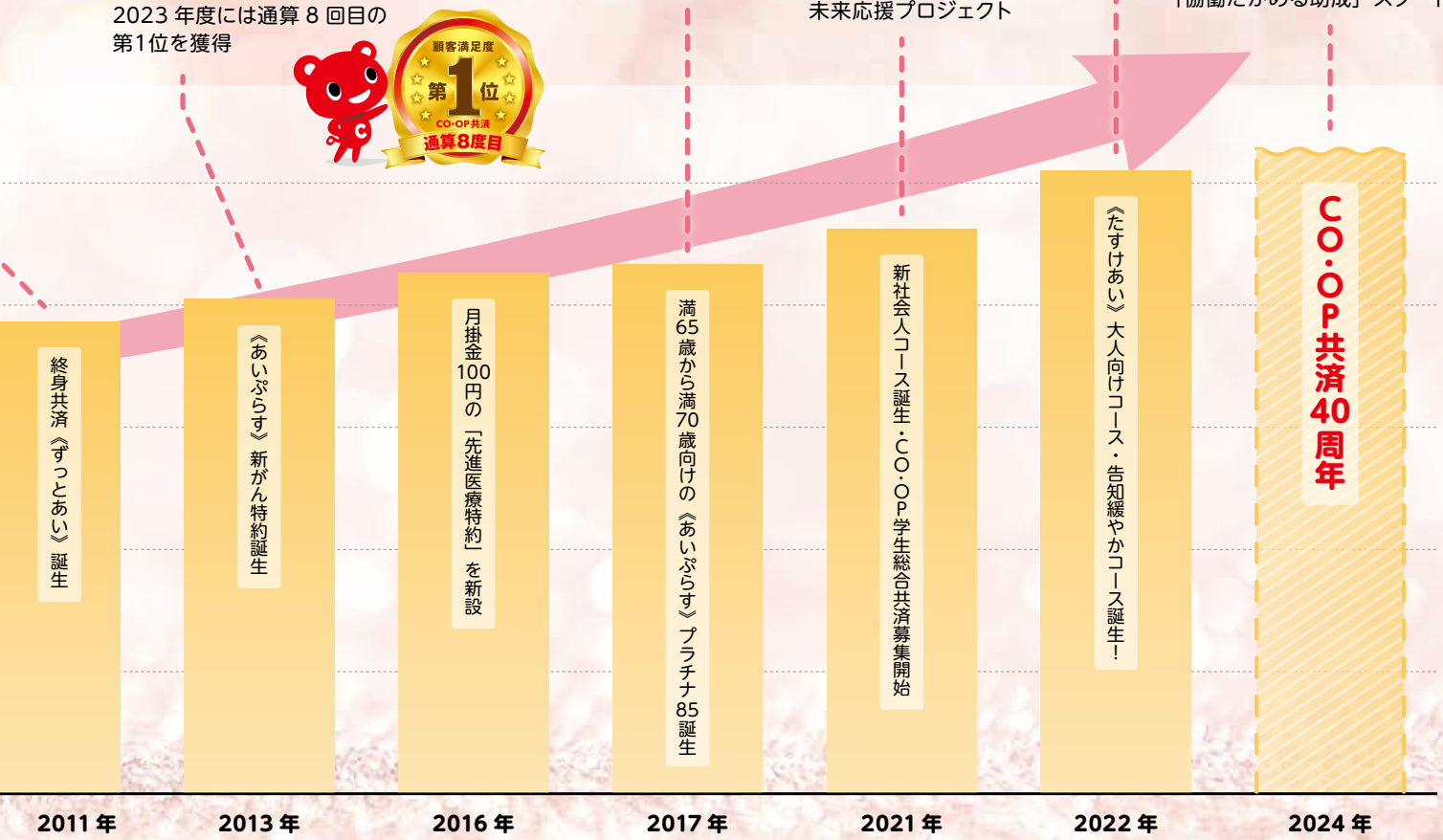
●2016 年
長期加入者への
感謝の取り組み
支援企画スタート

●2017 年
健康づくり支援企画スタート

●2021 年～
共済マイページお手続きで
Online たすけあい
～CO･OP共済子ども・学生
未来応援プロジェクト

●2022 年
地域ささえあい助成
「協働はじめる助成」
「協働ひろめる助成」スタート

●2024 年
・能登半島地震。
会員生協と共に支援。
・ライフプランニング活動 30 周年
・地域ささえあい助成
「協働たかめる助成」スタート



CO･OP 共済《たすけあい》《あいぷらす》《ずっとあい》の各商品は下記のコープ共済連ホームページでもご案内しています。

https://coopkyosai.coop/ コープ共済 検索

CO･OP共済 地域ささえあい助成
2023 年度 活動報告集

発行日：2024 年 6 月
発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会
総合マネジメント本部　組合員参加推進部
組合員参加・社会貢献活動グループ
地域ささえあい助成事務局
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13
電話　03-6836-1324
メール　contribution@coopkyosai.coop
CO･OP共済オフィシャルホームページ
https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/

CO･OP共済
SNS公式アカウント

- facebook フェイスブック
- Instagram インスタグラム
- X エックス
- LINE ライン
- YouTube ユーチューブ

FSC www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C170021

non VOC ink eco UV
この製品はノン VOC インキを使用し、エコ UV 印刷機で印刷しています。

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

（2024．06．1950）